

人口動態等に関する報告書

【令和6年度】



令和7年8月
都市政策課

目次

I	人口及び世帯	4
1	人口	4
2	世帯数及び1世帯当たり人員	5
3	年齢別人口	7
4	在留外国人の人口及び世帯数	17
II	人口動態	20
1	人口増減	20
2	自然動態	21
3	社会動態	23
4	単身世帯の社会動態	26
5	二人世帯の社会動態	29
6	三人以上世帯の社会動態	33
7	年齢別及び転入元・転出先別の移動数	37
III	ファミリー世帯の社会動態	42
1	社会動態	42
2	転入元・転出先別の移動数	45
3	町丁目別移動	47
IV	尼崎市の人口の動向—令和2年国勢調査を中心に	54
1	人口構成の変化と少子化	54
2	単身世帯及び高齢単身世帯の動向	58
3	昼夜間人口比率	59

※本書の利用にあたって

➤ 尼崎市の6地区は下図のとおりである。



【参考】6地区にある鉄道駅

- ・中央：〔阪神〕 出屋敷・尼崎・大物
- ・小田：〔J R〕 尼崎 〔阪神〕 杭瀬
- ・大庄：〔阪神〕 武庫川・尼崎センタープール前
- ・立花：〔阪急〕 塚口 〔J R〕 立花
- ・武庫：〔阪急〕 武庫之荘
- ・園田：〔阪急〕 園田 〔J R〕 塚口・猪名寺

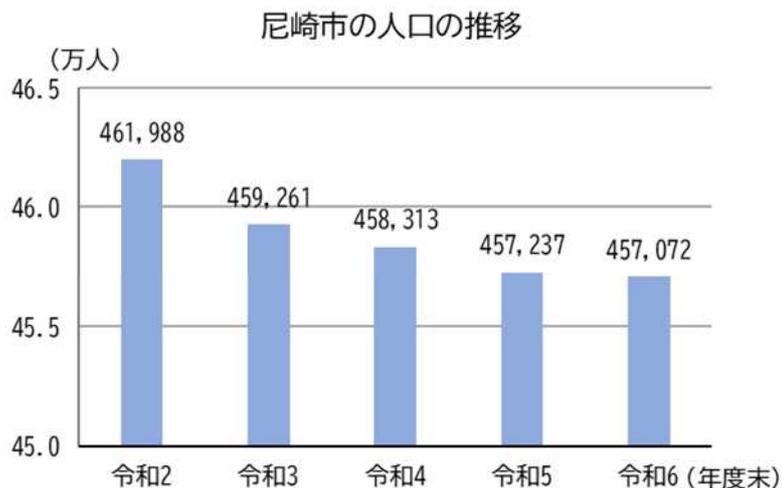
➤ 本報告書掲載の図表では、人口減少数、転出数、転出超過数等にはマイナスの符号を付した。

I 人口及び世帯

1 人口

(1) 全市

令和6年度末(令和7年3月31日現在。以下、同様。)における尼崎市の人口は、5年連続で減少し、457,072人となった。最近5年間の推移をみると、令和2年度末より1.1%減少(▲4,916人)した。



資料：尼崎市の人口(住民基本台帳人口)

(2) 地区別

令和6年度末における人口は、立花地区(107,185人)、園田地区(98,178人)、武庫地区(74,959人)、小田地区(74,382人)の順で多かった。また、前年度末と比べて、立花地区が0.20%増加(219人)、小田地区が0.19%増加(143人)、園田地区が0.13%増加(127人)となった。

最近5年間で人口が増加したのは園田地区で、令和2年度末より0.9%増加(834人)した。ほか5地区は減少し、このうち大庄地区が4.3%減少(▲2,286人)と、減少率が最も高い。



資料：尼崎市の人口(住民基本台帳人口)

人口（各年度末現在）

（単位：人）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	変化（R2-R6年度）	
						実数	増加率
全 市	461,988	459,261	458,313	457,237	457,072	▲ 4,916	▲ 1.1%
中央地区	52,752	52,346	52,116	51,774	51,763	▲ 989	▲ 1.9%
小田地区	74,787	74,207	74,408	74,239	74,382	▲ 405	▲ 0.5%
大庄地区	52,891	52,003	51,425	51,053	50,605	▲ 2,286	▲ 4.3%
立花地区	107,996	107,473	107,051	106,966	107,185	▲ 811	▲ 0.8%
武庫地区	76,218	75,766	75,397	75,154	74,959	▲ 1,259	▲ 1.7%
園田地区	97,344	97,466	97,916	98,051	98,178	834	0.9%

資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

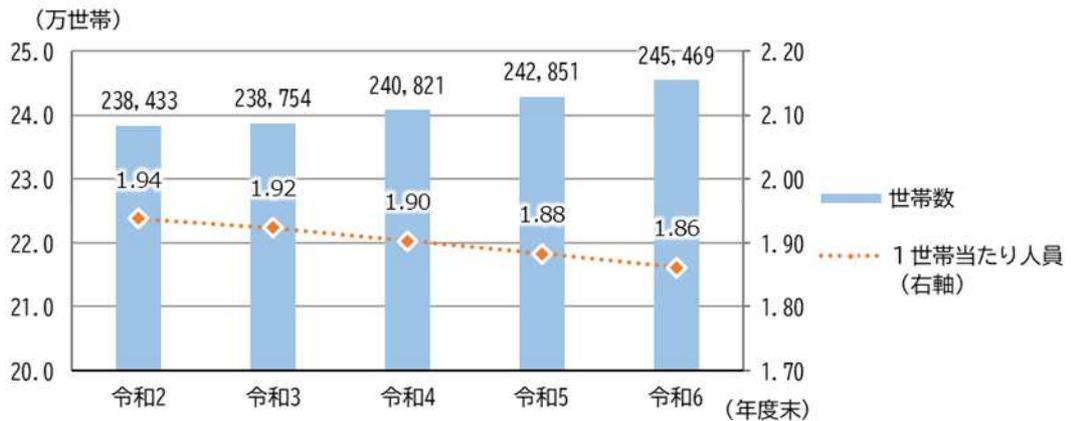
2 世帯数及び1世帯当たり人員

(1) 全市

令和6年度末における尼崎市の世帯数は245,469世帯である。世帯数は増加が続いており、令和2年度末に比べ3.0%増加（7,036世帯）した。

1世帯当たり人員は1.86人となり、令和2年度末より0.08人減少している。

尼崎市の世帯数の推移



資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

(2) 地区別

令和6年度末における世帯数は、立花地区（57,902世帯）、園田地区（50,777世帯）、小田地区（39,925世帯）の順が多い。また、すべての地区で、令和2年度末よりも世帯数が増加した。増加率が最も高いのは園田地区で、4.4%増加（2,122世帯）である。

1世帯当たり人員は、6地区とも減少が続き、いずれも2.00人未満となっている。

世帯数及び1世帯当たり人員の推移



世帯数 (各年度末現在)

(単位：世帯)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	変化 (R2-R6年度)	
						実数	増加率
全 市	238,433	238,754	240,821	242,851	245,469	7,036	3.0%
中央地区	29,864	29,937	30,222	30,364	30,800	936	3.1%
小田地区	38,698	38,681	39,157	39,412	39,925	1,227	3.2%
大庄地区	27,789	27,625	27,628	27,770	27,833	44	0.2%
立花地区	55,928	56,116	56,492	57,081	57,902	1,974	3.5%
武庫地区	37,499	37,498	37,695	37,994	38,232	733	2.0%
園田地区	48,655	48,897	49,627	50,230	50,777	2,122	4.4%

資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

1世帯当たり人員 (各年度末現在)

(単位：人)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	変化 (R2-R6年度)
全 市	1.94	1.92	1.90	1.88	1.86	▲ 0.08
中央地区	1.77	1.75	1.72	1.71	1.68	▲ 0.09
小田地区	1.93	1.92	1.90	1.88	1.86	▲ 0.07
大庄地区	1.90	1.88	1.86	1.84	1.82	▲ 0.09
立花地区	1.93	1.92	1.90	1.87	1.85	▲ 0.08
武庫地区	2.03	2.02	2.00	1.98	1.96	▲ 0.07
園田地区	2.00	1.99	1.97	1.95	1.93	▲ 0.07

資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

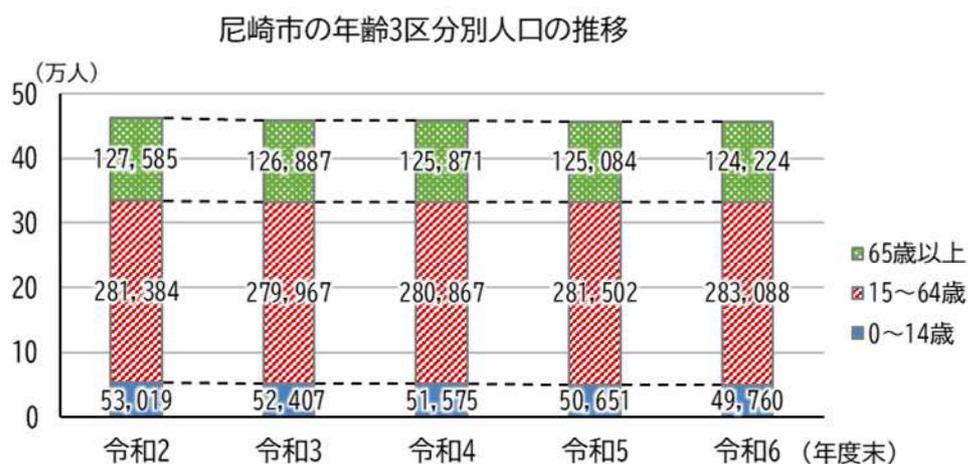
3 年齢別人口

(1) 年齢3区分別人口

①全市

令和6年度末における0～14歳人口（年少人口）は49,760人、15～64歳人口（生産年齢人口）は283,088人、65歳以上人口（老年人口）は124,224人である。

令和2年度末と比べると、0～14歳人口は6.1%減少（▲3,259人）、15～64歳人口は0.6%増加（1,704人）、65歳以上人口は2.6%減少（▲3,361人）となった。



資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

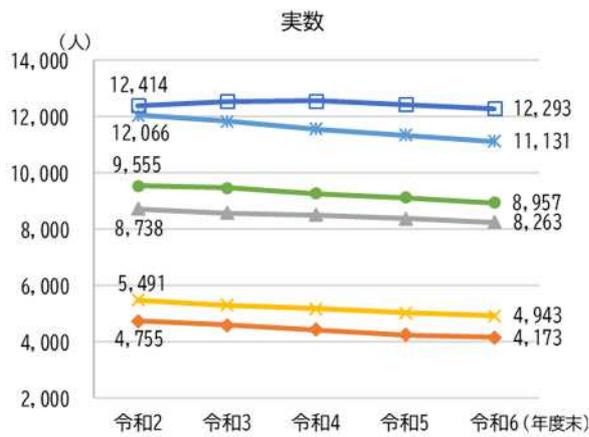
②地区別

令和6年度末の0～14歳人口は、園田地区（12,293人）、立花地区（11,131人）、武庫地区（8,957人）、小田地区（8,263人）の順が多い。6地区とも、令和2年度末に比べて減少しており、減少率は、中央地区で12.2%（▲582人）、大庄地区で10.0%（▲548人）と10%以上となり、立花地区、武庫地区、小田地区で5%以上となった。

次に、15～64歳人口をみると、令和6年度末は、立花地区（67,046人）、園田地区（62,545人）、武庫地区（46,184人）の順が多い。令和2年度末と比べると、小田地区が2.1%増加（932人）、園田地区が2.0%増加（1,218人）、立花地区が1.0%増加（665人）、中央地区は横ばいとなった。一方で、大庄地区は2.3%（▲695人）の減少、武庫地区で1.3%（▲627人）の減少となった。

65歳以上人口は、令和6年度末において、立花地区（29,008人）、園田地区（23,340人）、小田地区（20,775人）の順が多い。令和2年度末と比べると、6地区とも減少しており、大庄地区で6.2%（▲1,043人）、小田地区が4.0%（▲862人）、中央地区が3.9%（▲618人）の順で減少率が高く、南部3地区の減少率が高くなっている。

0～14 歳人口の推移

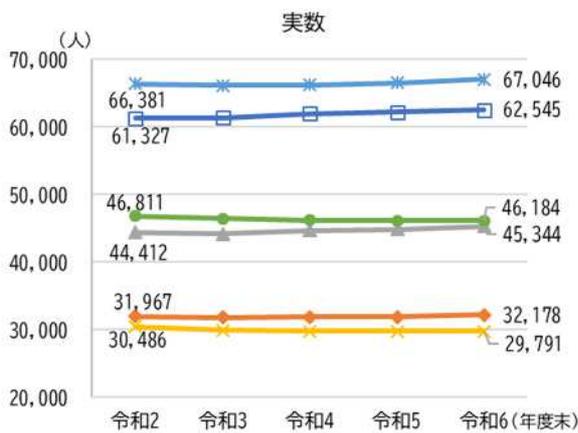


資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）
※グラフの記号は右図に同じ。（以下同じ。）

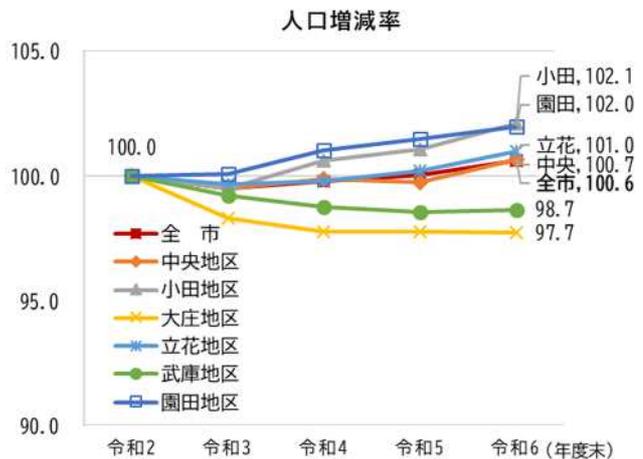


資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）
※令和2年度末を100とする。（以下同じ。）

15～64 歳人口の推移

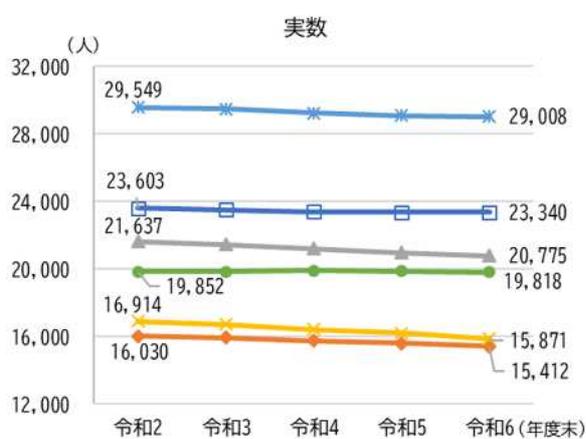


資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

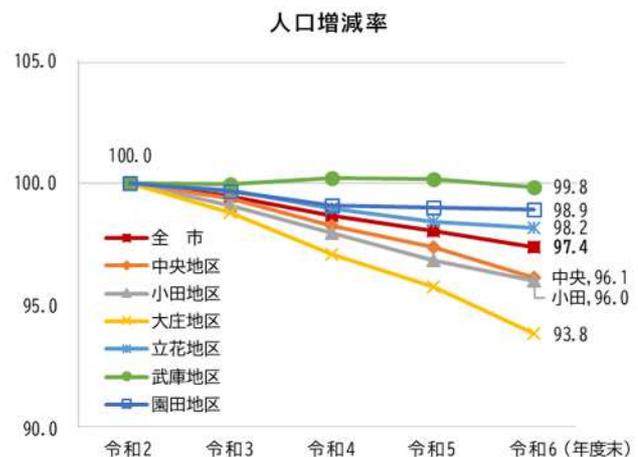


資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

65 歳以上人口の推移



資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）



資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

0～14歳人口（各年度末現在） (単位：人)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	変化（R2-R6年度）	
						実数	増加率
全 市	53,019	52,407	51,575	50,651	49,760	▲ 3,259	▲ 6.1%
中央地区	4,755	4,612	4,440	4,271	4,173	▲ 582	▲ 12.2%
小田地区	8,738	8,590	8,517	8,398	8,263	▲ 475	▲ 5.4%
大庄地区	5,491	5,319	5,189	5,050	4,943	▲ 548	▲ 10.0%
立花地区	12,066	11,847	11,576	11,348	11,131	▲ 935	▲ 7.7%
武庫地区	9,555	9,481	9,280	9,137	8,957	▲ 598	▲ 6.3%
園田地区	12,414	12,558	12,573	12,447	12,293	▲ 121	▲ 1.0%

資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

15～64歳人口（各年度末現在） (単位：人)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	変化（R2-R6年度）	
						実数	増加率
全 市	281,384	279,967	280,867	281,502	283,088	1,704	0.6%
中央地区	31,967	31,807	31,928	31,892	32,178	211	0.7%
小田地区	44,412	44,185	44,695	44,888	45,344	932	2.1%
大庄地区	30,486	29,976	29,815	29,810	29,791	▲ 695	▲ 2.3%
立花地区	66,381	66,165	66,241	66,534	67,046	665	1.0%
武庫地区	46,811	46,443	46,229	46,136	46,184	▲ 627	▲ 1.3%
園田地区	61,327	61,391	61,959	62,242	62,545	1,218	2.0%

資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

65歳以上人口（各年度末現在） (単位：人)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	変化（R2-R6年度）	
						実数	増加率
全 市	127,585	126,887	125,871	125,084	124,224	▲ 3,361	▲ 2.6%
中央地区	16,030	15,927	15,748	15,611	15,412	▲ 618	▲ 3.9%
小田地区	21,637	21,432	21,196	20,953	20,775	▲ 862	▲ 4.0%
大庄地区	16,914	16,708	16,421	16,193	15,871	▲ 1,043	▲ 6.2%
立花地区	29,549	29,461	29,234	29,084	29,008	▲ 541	▲ 1.8%
武庫地区	19,852	19,842	19,888	19,881	19,818	▲ 34	▲ 0.2%
園田地区	23,603	23,517	23,384	23,362	23,340	▲ 263	▲ 1.1%

資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

(2) 年齢3区分別人口構成比

①全市

令和6年度末における年齢3区分別人口の割合をみると、0～14歳人口は10.9%で、令和2年度末より0.6ポイント低下した。15～64歳人口は61.9%で、1.0ポイント上昇した。65歳以上人口は27.2%で、令和2年度末より横ばいとなった。

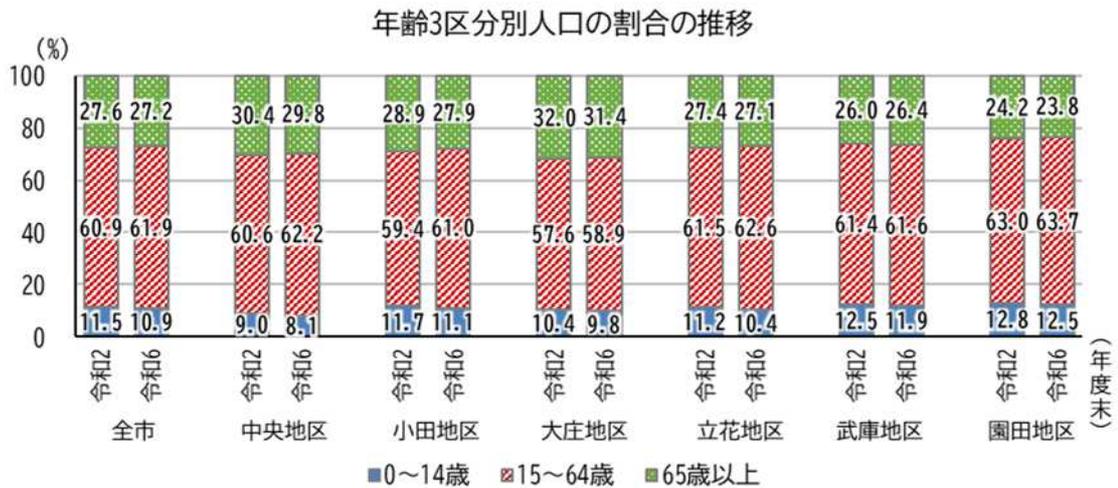
②地区別

令和6年度末の0～14歳人口の割合は、園田地区（12.5%）、武庫地区（11.9%）、小田地区（11.1%）、立花地区（10.4%）の順に高かった。一方で、中央地区（8.1%）、大庄地区（9.8%）は、1割を下回った。令和2年度末と比べると、6地区とも割合が低下しており、低下幅は、中央地区の1.0ポイントが最も大きく、次いで、立花地区の0.8ポイントが大きかった。

15～64歳人口では、園田地区（63.7%）、立花地区（62.6%）、中央地区（62.2%）の順で高かった。大庄地区（58.9%）は最も割合が低く、唯一6割を下回っている。令和

2年度末と比べると、6地区とも割合が上昇した。上昇幅は、中央地区、小田地区でも1.6ポイントと最も大きかった。

65歳以上人口は、大庄地区（31.4%）が3割を上回り、次いで、中央地区（29.8%）、小田地区（27.9%）の順で高かった。令和2年度末と比べると、武庫地区のみ割合が上昇し、上昇幅は0.4ポイントであった。ほか5地区は割合が低下し、減少幅が最も大きかったのは、小田地区で1.0ポイントであった。

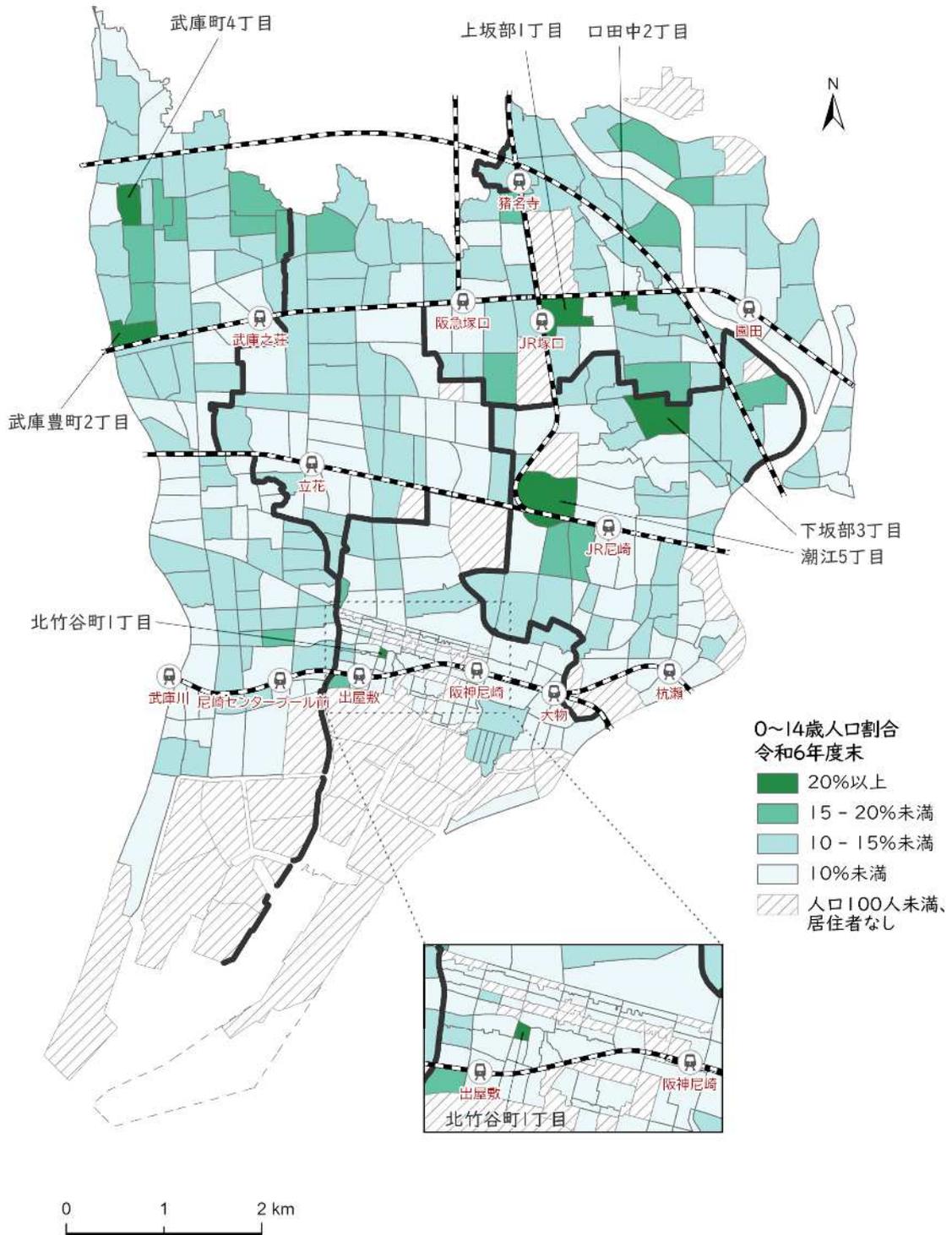


資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

年齢3区分別人口の割合（各年度末現在）

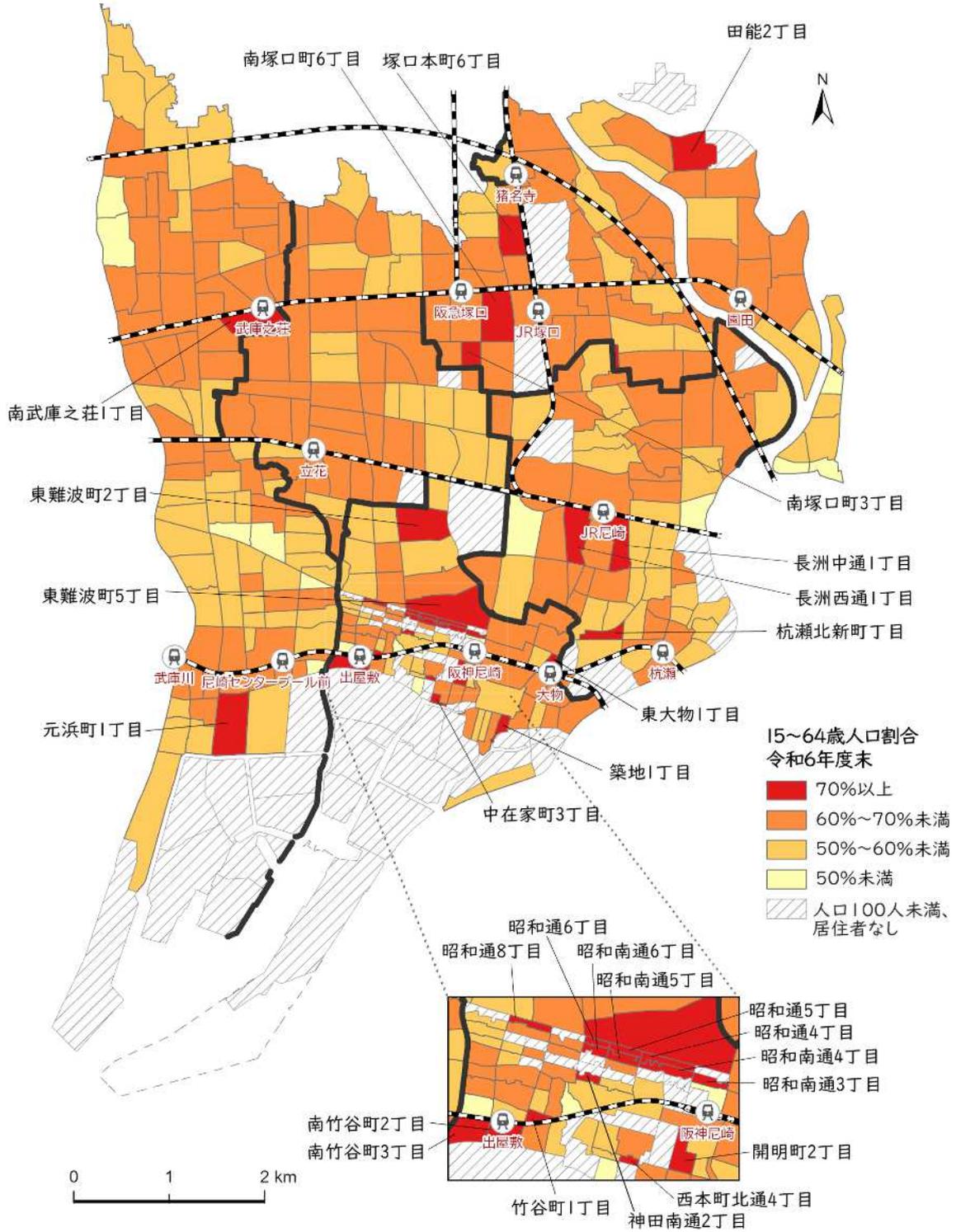
		0~14歳	15~64歳	65歳以上			0~14歳	15~64歳	65歳以上
全市	令和2年度	11.5%	60.9%	27.6%	立花地区	令和2年度	11.2%	61.5%	27.4%
	令和3年度	11.4%	61.0%	27.6%		令和3年度	11.0%	61.6%	27.4%
	令和4年度	11.3%	61.3%	27.5%		令和4年度	10.8%	61.9%	27.3%
	令和5年度	11.1%	61.6%	27.4%		令和5年度	10.6%	62.2%	27.2%
	令和6年度	10.9%	61.9%	27.2%		令和6年度	10.4%	62.6%	27.1%
	割合の変化*	▲ 0.6	1.0	▲ 0.4		割合の変化*	▲ 0.8	1.1	▲ 0.3
中央地区	令和2年度	9.0%	60.6%	30.4%	武庫地区	令和2年度	12.5%	61.4%	26.0%
	令和3年度	8.8%	60.8%	30.4%		令和3年度	12.5%	61.3%	26.2%
	令和4年度	8.5%	61.3%	30.2%		令和4年度	12.3%	61.3%	26.4%
	令和5年度	8.2%	61.6%	30.2%		令和5年度	12.2%	61.4%	26.5%
	令和6年度	8.1%	62.2%	29.8%		令和6年度	11.9%	61.6%	26.4%
	割合の変化*	▲ 1.0	1.6	▲ 0.6		割合の変化*	▲ 0.6	0.2	0.4
小田地区	令和2年度	11.7%	59.4%	28.9%	園田地区	令和2年度	12.8%	63.0%	24.2%
	令和3年度	11.6%	59.5%	28.9%		令和3年度	12.9%	63.0%	24.1%
	令和4年度	11.4%	60.1%	28.5%		令和4年度	12.8%	63.3%	23.9%
	令和5年度	11.3%	60.5%	28.2%		令和5年度	12.7%	63.5%	23.8%
	令和6年度	11.1%	61.0%	27.9%		令和6年度	12.5%	63.7%	23.8%
	割合の変化*	▲ 0.6	1.6	▲ 1.0		割合の変化*	▲ 0.2	0.7	▲ 0.5
大庄地区	令和2年度	10.4%	57.6%	32.0%	資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）				
	令和3年度	10.2%	57.6%	32.1%	※割合の変化は、令和4年度から平成30年度を引いた差。				
	令和4年度	10.1%	58.0%	31.9%					
	令和5年度	9.9%	58.4%	31.7%					
	令和6年度	9.8%	58.9%	31.4%					
	割合の変化*	▲ 0.6	1.2	▲ 0.6					

町丁目別 0～14歳人口の割合（令和6年度末）



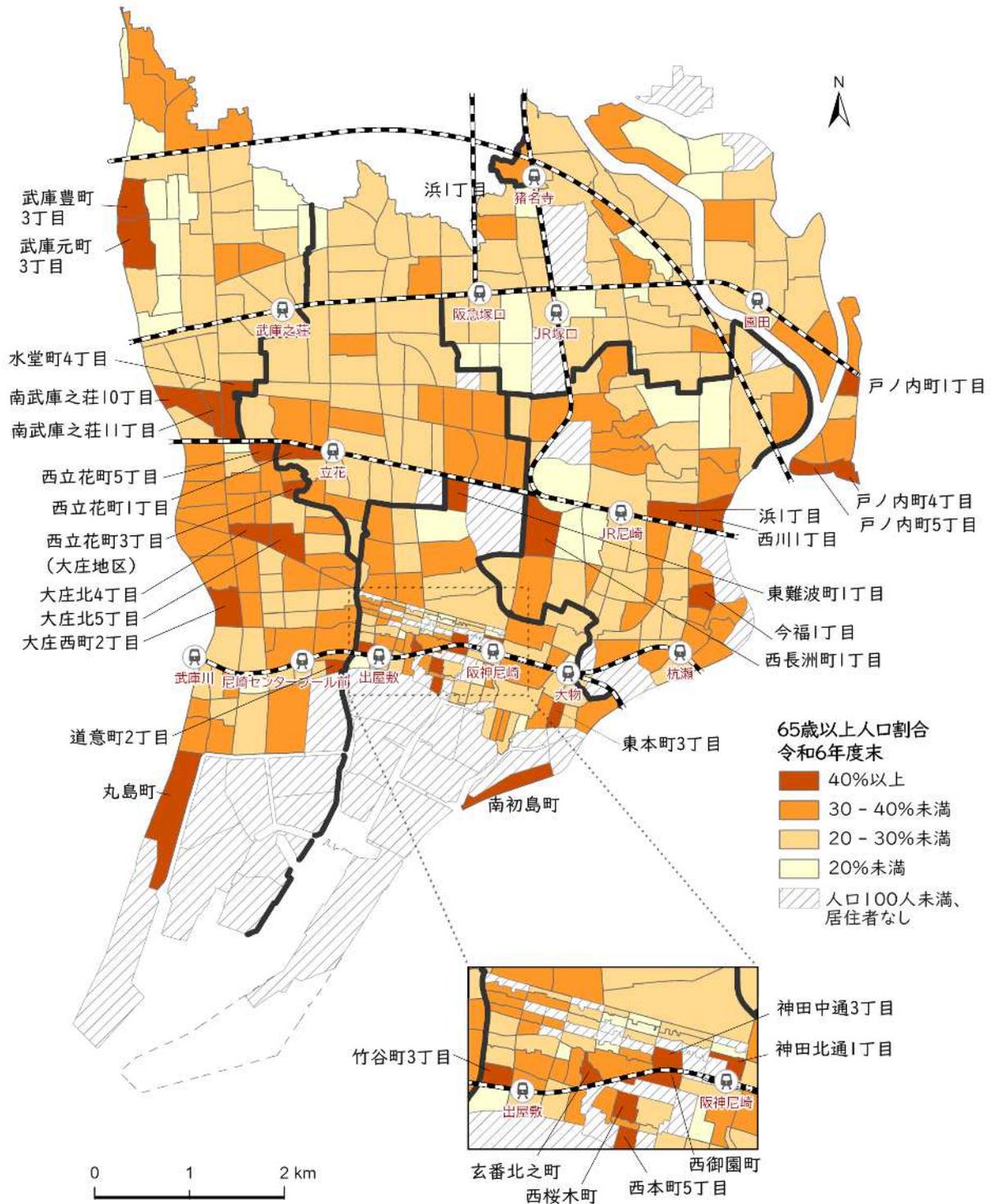
資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

町丁目別 15～64歳人口の割合（令和6年度末）



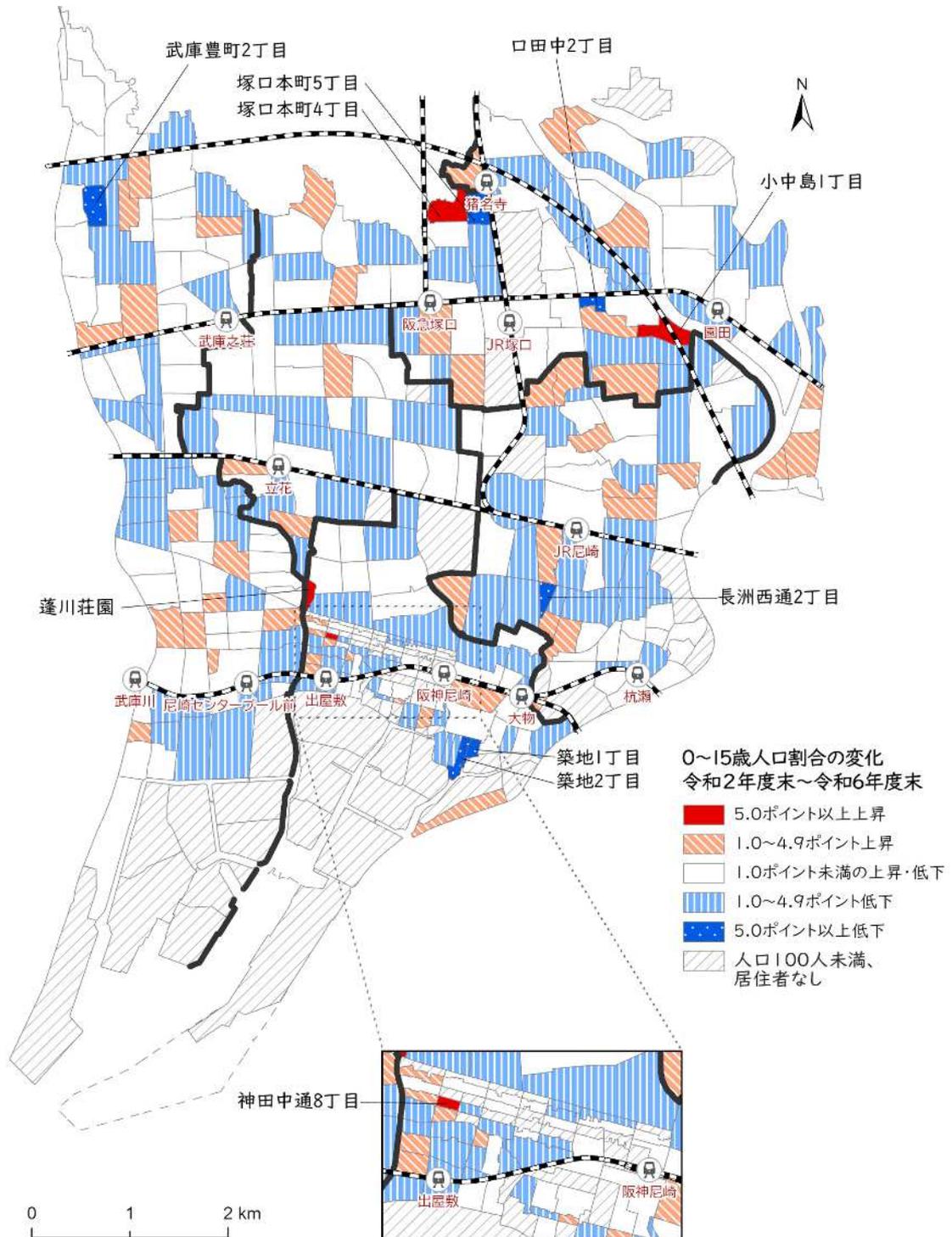
資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

町丁目別 65歳以上人口の割合（令和6年度末）



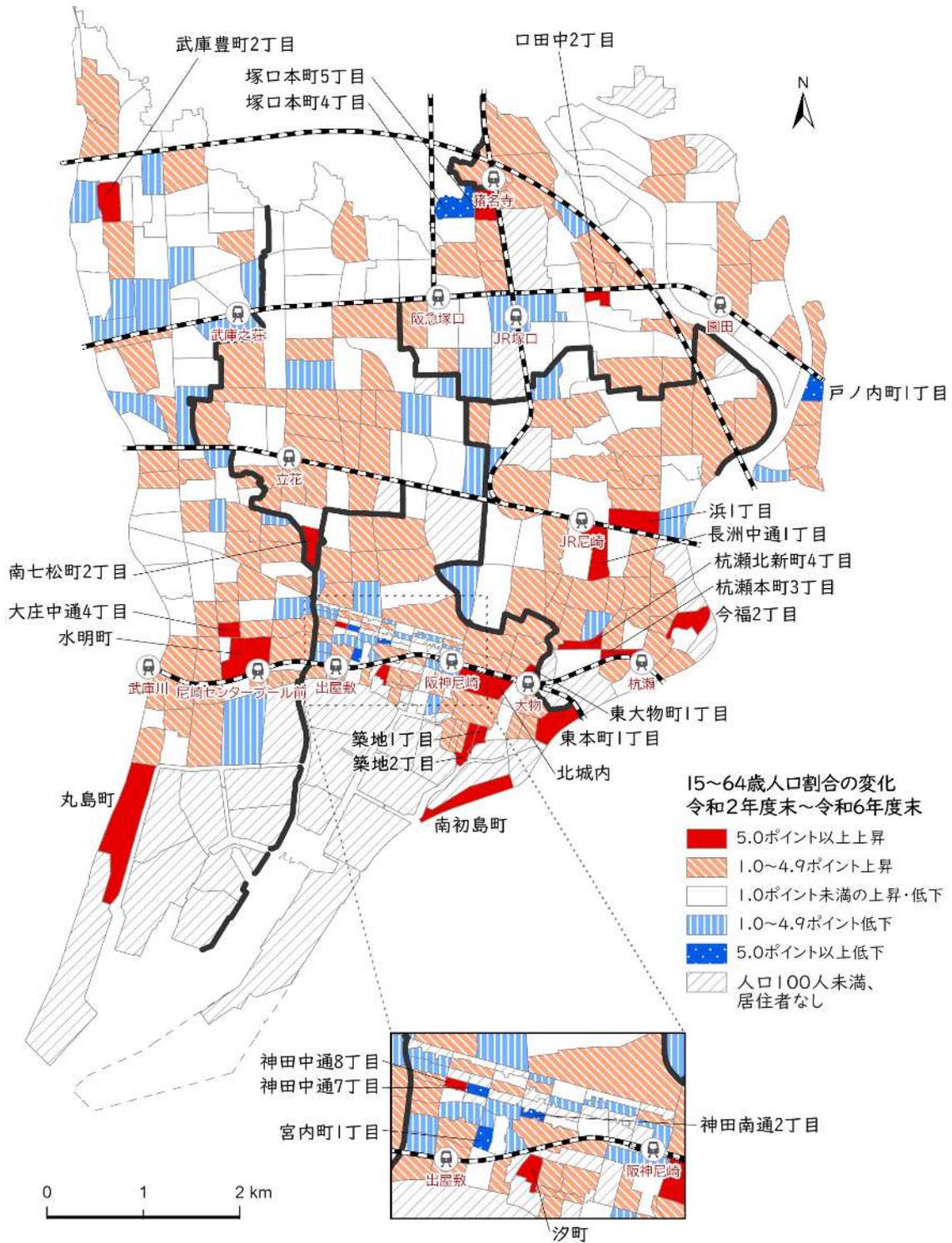
資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

町丁目別 0～14歳人口の割合の変化（令和2年度末～6年度末）



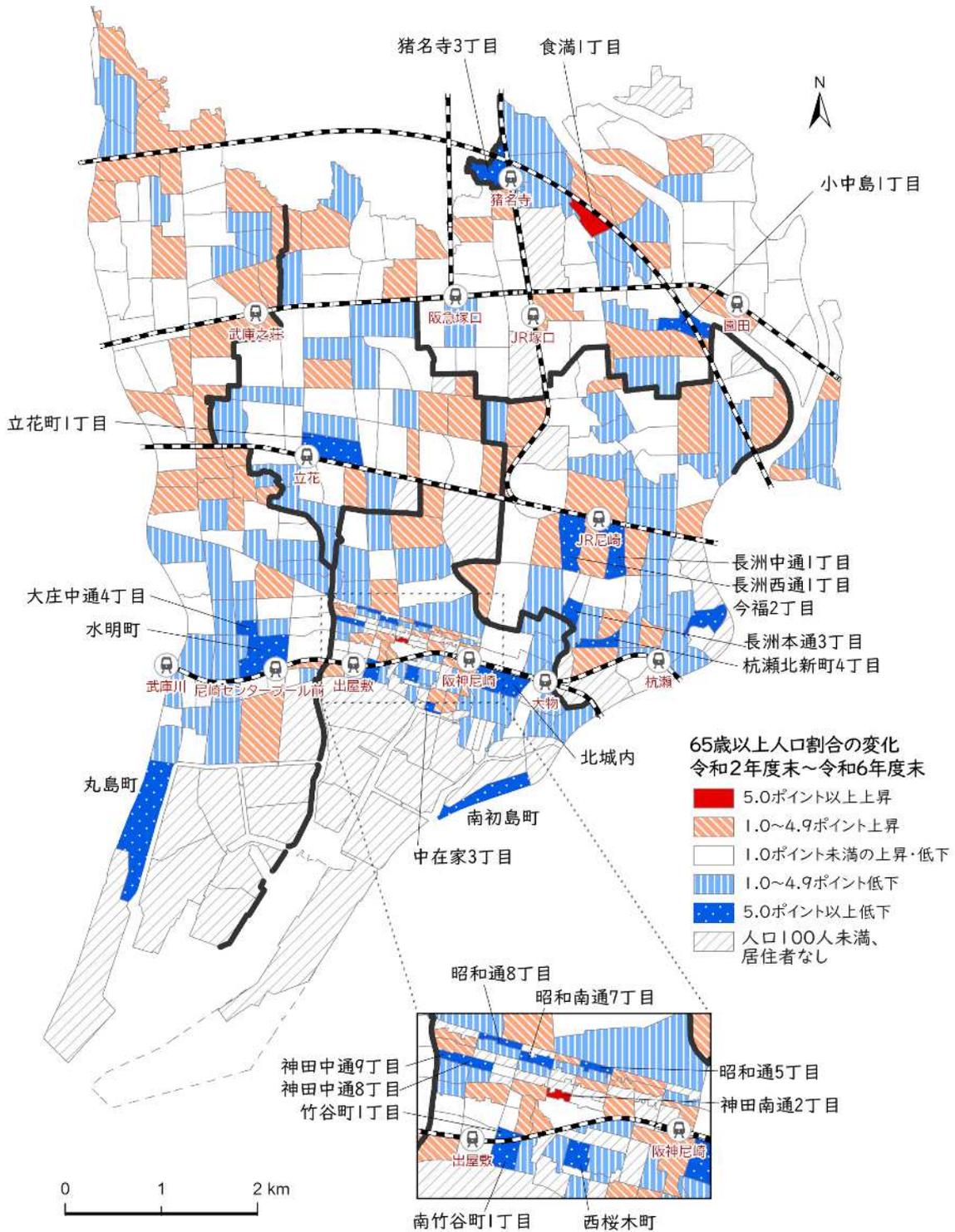
資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

町丁目別 15～64歳人口の割合の変化（令和2年度末～6年度末）



資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

町丁目別 65歳以上人口の割合の変化（令和2年度末～6年度末）



資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

4 在留外国人の人口及び世帯数

(1) 人口

①全市

令和6年度末における在留外国人人口は、14,511人である。前年度末より9.9%の増加（1,303人）、令和2年度末と比べると21.1%の増加（2,525人）となった。

尼崎市 在留外国人人口の推移



資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

②地区別

令和6年度末における在留外国人人口は、立花地区(2,942人)、園田地区(2,797人)、中央地区(2,474人)の順が多い。また、6地区とも前年度末より増加している。

令和2年度末と比べると、6地区とも増加し、なかでも、園田地区は34.8%増加(722人)と増加率は3割を超え、小田地区、中央地区、立花地区でも2割を超えている。一方で、武庫地区では1.3%と低調であった。

地区別 在留外国人人口の推移



資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

在留外国人人口（各年度末現在）

（単位：人）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	変化（R2-R6年度）	
						実数	増加率
全 市	11,986	11,601	12,368	13,208	14,511	2,525	21.1%
中央地区	1,992	1,921	2,061	2,171	2,474	482	24.2%
小田地区	1,682	1,602	1,733	1,904	2,158	476	28.3%
大庄地区	2,016	1,908	1,992	2,126	2,270	254	12.6%
立花地区	2,375	2,328	2,455	2,663	2,942	567	23.9%
武庫地区	1,846	1,811	1,858	1,855	1,870	24	1.3%
園田地区	2,075	2,031	2,269	2,489	2,797	722	34.8%

資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

(2) 世帯数及び1世帯当たり人員

①全市

令和6年度末における在留外国人世帯数は、9,911世帯となり、前年度末と比べて13.0%増加（1,137世帯）した。また、令和2年度末に比べて29.3%増加（2,244世帯）した。

1世帯当たり人員は、令和6年度末で1.46人と、前年度末より0.05人減少した。



資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

②地区別

令和6年度末の世帯数は、園田地区（1,961世帯）、立花地区（1,942世帯）、中央地区（1,719世帯）の順が多い。

令和2年度末に比べると6地区とも増加し、増加率は、園田地区で43.8%増加（597世帯）、小田地区で37.1%（409世帯）、立花地区で33.4%（486世帯）、中央地区で33.3%（429世帯）と30%を上回った。

1世帯当たり人員は、小田地区・園田地区がともに1.43人、中央地区が1.44人の順で少なく、立花地区・武庫地区はともに1.52人と多かった。また、6地区とも、令和3年度末以降、減少が続き、単身世帯の割合が高まっていることがうかがえる。

地区別 在留外国人 世帯数及び平均世帯人員の推移



資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

在留外国人世帯数（各年度末現在）

（単位：人）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	変化（R2-R6年度）	
						実数	増加率
全 市	7,667	7,295	8,022	8,774	9,911	2,244	29.3%
中央地区	1,290	1,239	1,361	1,450	1,719	429	33.3%
小田地区	1,101	1,006	1,150	1,284	1,510	409	37.1%
大庄地区	1,315	1,228	1,289	1,410	1,552	237	18.0%
立花地区	1,456	1,423	1,544	1,717	1,942	486	33.4%
武庫地区	1,141	1,115	1,171	1,194	1,227	86	7.5%
園田地区	1,364	1,284	1,507	1,719	1,961	597	43.8%

資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

在留外国人1世帯当たり人員（各年度末現在）

（単位：人）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	変化（R2-R6年度）
全 市	1.56	1.59	1.54	1.51	1.46	▲ 0.10
中央地区	1.54	1.55	1.51	1.50	1.44	▲ 0.11
小田地区	1.53	1.59	1.51	1.48	1.43	▲ 0.10
大庄地区	1.53	1.55	1.55	1.51	1.46	▲ 0.07
立花地区	1.63	1.64	1.59	1.55	1.52	▲ 0.12
武庫地区	1.62	1.62	1.59	1.55	1.52	▲ 0.09
園田地区	1.52	1.58	1.51	1.45	1.43	▲ 0.10

資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

II 人口動態

1 人口増減

(1) 全市

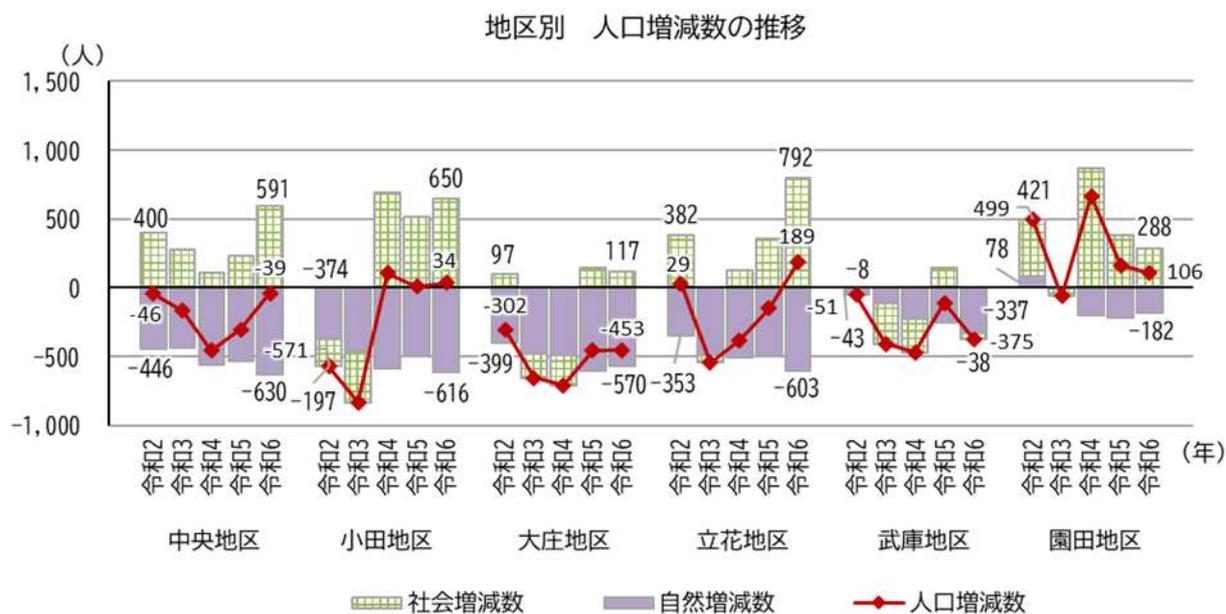
令和6年(暦年1年間。以下同様。)は、前年より538人減少し、減少幅は3年連続で縮小した。増減の内訳をみると、自然動態は2,938人の減少で、3年連続で減少幅が拡大した。社会動態は2,400人の増加で、2年連続で増加幅が拡大した。



資料：尼崎市人口月報

(2) 地区別

令和6年に人口が増加したのは、立花地区(189人)、園田地区(106人)、小田地区(34人)の3地区であった。減少したのは、大庄地区(▲453人)、武庫地区(▲375人)、中央地区(▲39人)であった。内訳をみると、武庫地区では、自然動態・社会動態とも減少、その他5地区は、自然減で社会増であった。



資料：尼崎市人口月報

人口増減数		(単位：人)				
	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
全 市	▲ 442	▲ 2,672	▲ 1,253	▲ 849	▲ 538	
中央地区	▲ 46	▲ 167	▲ 458	▲ 304	▲ 39	
小田地区	▲ 571	▲ 833	105	10	34	
大庄地区	▲ 302	▲ 655	▲ 708	▲ 458	▲ 453	
立花地区	29	▲ 546	▲ 385	▲ 151	189	
武庫地区	▲ 51	▲ 409	▲ 473	▲ 110	▲ 375	
園田地区	499	▲ 62	666	164	106	

資料：尼崎市人口月報

2 自然動態

(1) 全市

出生数は減少が続き、令和6年は前年より3.4%減少（▲112人）して3,210人となった。死亡数は増加傾向にあり、前年より3.6%増加（320人）して6,148人となった。そのため、2,938人の自然減となり、減少幅は前年より12.4%拡大（▲324人）した。

尼崎市の自然増減数の推移



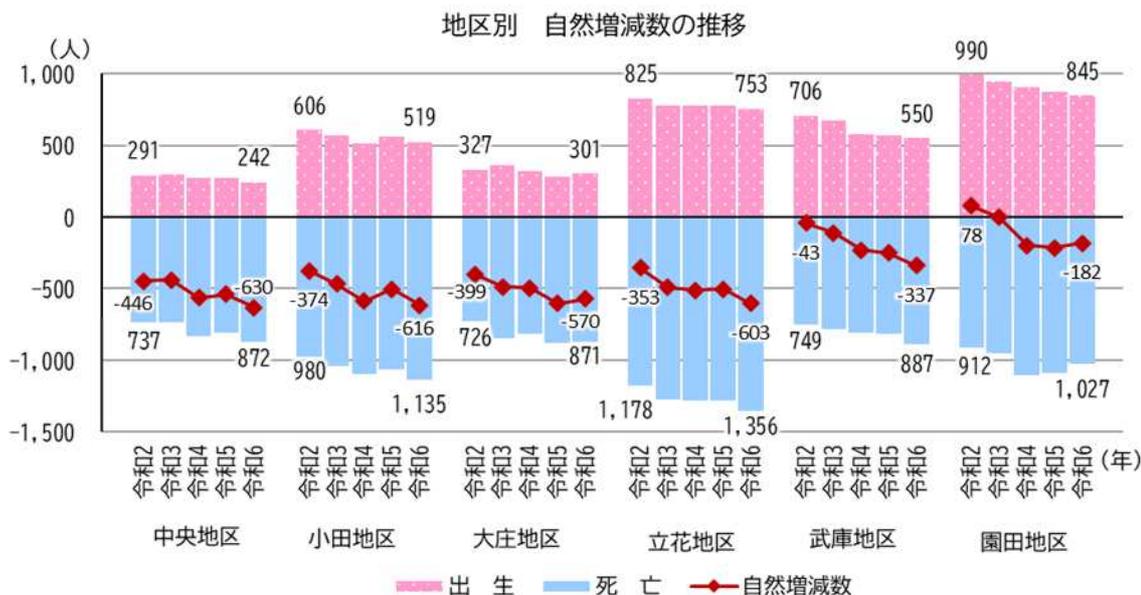
資料：尼崎市人口月報

(2) 地区別

令和6年の出生数は、園田地区（845人）、立花地区（753人）、武庫地区（550人）、小田地区（519人）の順で多かった。死亡数は、立花地区（1,356人）、小田地区（1,135人）園田地区（1,027人）の順で多く、ほか3地区も900人弱と出生数を大きく上回った。

減少数は、中央地区（▲630人）が最も大きく、小田地区（▲616人）、立花地区（▲603人）も600人を上回った。

最近5年間の推移をみると、園田地区が令和3年に減少に転じた後、6地区とも自然減となっているが、令和6年は園田地区（▲182人）、大庄地区（▲570人）で減少幅が縮小した。一方で、武庫地区では、減少幅の拡大が続いている。



資料：尼崎市人口月報

出生数 (単位：人)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
全 市	3,745	3,632	3,367	3,322	3,210
中央地区	291	297	272	270	242
小田地区	606	571	515	557	519
大庄地区	327	363	320	279	301
立花地区	825	779	775	778	753
武庫地区	706	676	578	567	550
園田地区	990	946	907	871	845

資料：尼崎市人口月報

死亡数 (単位：人)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
全 市	5,282	5,625	5,945	5,936	6,148
中央地区	737	736	834	809	872
小田地区	980	1,037	1,100	1,061	1,135
大庄地区	726	848	815	883	871
立花地区	1,178	1,269	1,284	1,281	1,356
武庫地区	749	786	808	817	887
園田地区	912	949	1,104	1,085	1,027

資料：尼崎市人口月報

自然増減数 (出生数－死亡数) (単位：人)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
全 市	▲ 1,537	▲ 1,993	▲ 2,578	▲ 2,614	▲ 2,938
中央地区	▲ 446	▲ 439	▲ 562	▲ 539	▲ 630
小田地区	▲ 374	▲ 466	▲ 585	▲ 504	▲ 616
大庄地区	▲ 399	▲ 485	▲ 495	▲ 604	▲ 570
立花地区	▲ 353	▲ 490	▲ 509	▲ 503	▲ 603
武庫地区	▲ 43	▲ 110	▲ 230	▲ 250	▲ 337
園田地区	78	▲ 3	▲ 197	▲ 214	▲ 182

資料：尼崎市人口月報

3 社会動態

(1) 全市

令和6年の転入数は、前年より4.3%増加(848人)して20,403人となり、2万人を超えた。転出数は、前年より1.2%増加(213人)して18,003人となり、2,400人の転入超過となった。

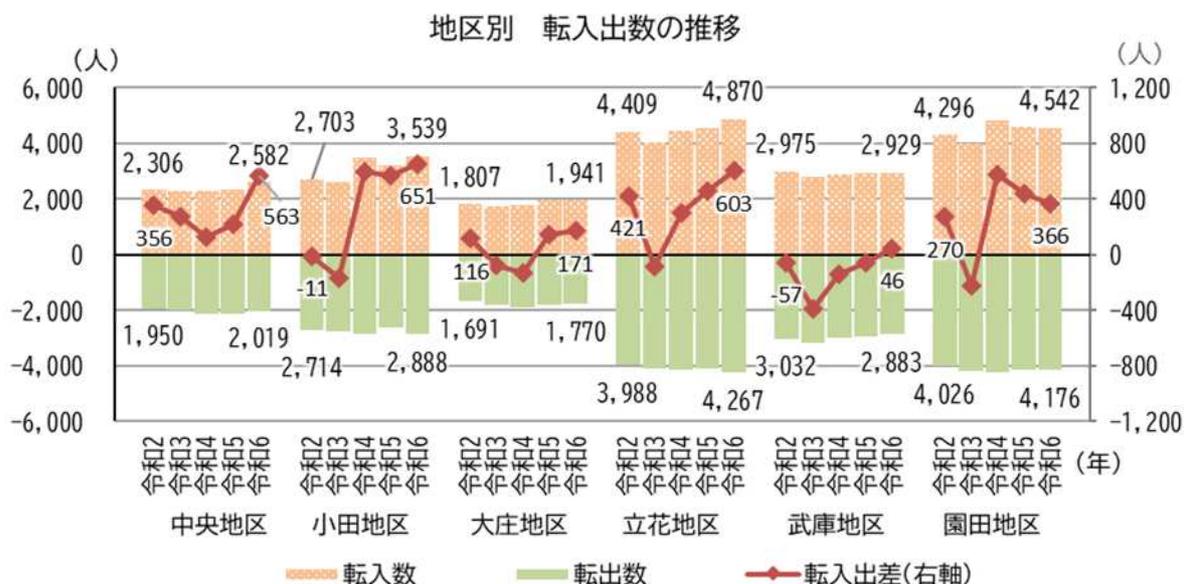


資料：尼崎市人口月報

(2) 地区別

① 転入出

令和6年の地区別の市外からの転入数をみると、立花地区(4,870人)、園田地区(4,542人)、小田地区(3,539人)の順で多かった。令和2年に比べ、小田地区で30.9%増加(836人)、中央地区で12.0%増加(276人)、立花地区で10.5%増加(461人)となり、大庄地区、園田地区も増加となったのに対し、武庫地区のみ減少している。



資料：尼崎市人口月報

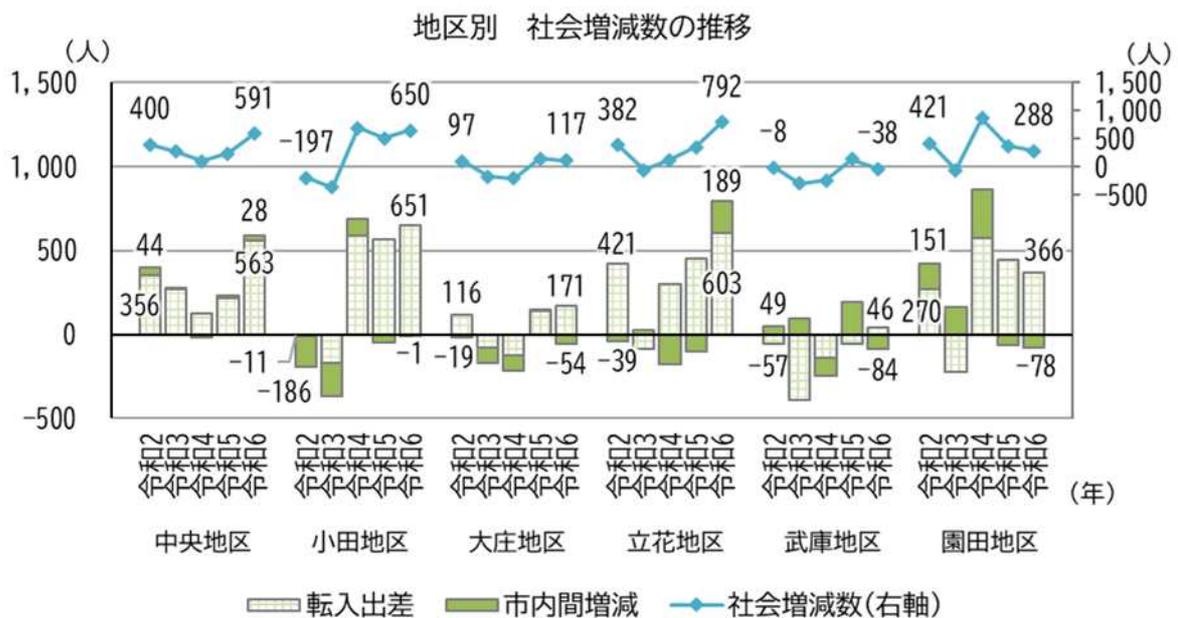
転出数は、立花地区（4,267人）、園田地区（4,176人）庫地区（3,004人）の順が多かった。令和2年に比べ、武庫地区のみ転出数が4.9%減少（▲149人）し、ほか5地区では増加となった。増加率が最も高かったのは立花地区で7.0%（279人）であった。

転入出差をみると、令和6年は6地区とも転入超過となり、超過数は、小田地区（651人）、立花地区（603人）、中央地区（563人）の順が多かった。

②市内間転居を含む社会増減

市外との転入・転出と市内間転居による増減の合計でみると、令和6年は、武庫地区が社会減、ほか5地区が社会増となった。増加数は、立花地区（792人）、小田地区（650人）、中央地区（563人）の順が多かった。

社会増減数の内訳をみると、中央地区、立花地区では、転入超過で市内間転居でも増加となり、ほか4地区では、転入超過であるものの市内間転居では減少となった。特に、武庫地区では、市内間転居の減少数が転入超過数を上回っている。



資料：尼崎市人口月報

転入者数 (単位: 人)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6)	
						実数	増加率
全市	18,496	17,397	19,645	19,555	20,403	1,907	10.3%
中央地区	2,306	2,264	2,272	2,339	2,582	276	12.0%
小田地区	2,703	2,594	3,476	3,219	3,539	836	30.9%
大庄地区	1,807	1,722	1,774	1,947	1,941	134	7.4%
立花地区	4,409	4,028	4,444	4,557	4,870	461	10.5%
武庫地区	2,975	2,795	2,866	2,912	2,929	▲46	▲1.5%
園田地区	4,296	3,994	4,813	4,581	4,542	246	5.7%

資料：尼崎市人口月報

転出者数

(単位：人)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6)	
						実数	増加率
全 市	17,401	18,076	18,320	17,790	18,003	602	3.5%
中央地区	1,950	1,995	2,146	2,121	2,019	69	3.5%
小田地区	2,714	2,764	2,886	2,655	2,888	174	6.4%
大庄地区	1,691	1,802	1,902	1,805	1,770	79	4.7%
立花地区	3,988	4,113	4,144	4,100	4,267	279	7.0%
武庫地区	3,032	3,186	3,004	2,970	2,883	▲ 149	▲ 4.9%
園田地区	4,026	4,216	4,238	4,139	4,176	150	3.7%

資料：尼崎市人口月報

転入出差 (転入者数－転出者数)

(単位：人)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6)
全 市	1,095	▲ 679	1,325	1,765	2,400	1,305
中央地区	356	269	126	218	563	207
小田地区	▲ 11	▲ 170	590	564	651	662
大庄地区	116	▲ 80	▲ 128	142	171	55
立花地区	421	▲ 85	300	457	603	182
武庫地区	▲ 57	▲ 391	▲ 138	▲ 58	46	103
園田地区	270	▲ 222	575	442	366	96

資料：尼崎市人口月報

市内間増減

(単位：人)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6)
全 市	0	0	0	0	0	0
中央地区	44	3	▲ 22	17	28	▲ 16
小田地区	▲ 186	▲ 197	100	▲ 50	▲ 1	185
大庄地区	▲ 19	▲ 90	▲ 85	4	▲ 54	▲ 35
立花地区	▲ 39	29	▲ 176	▲ 105	189	228
武庫地区	49	92	▲ 105	198	▲ 84	▲ 133
園田地区	151	163	288	▲ 64	▲ 78	▲ 229

資料：尼崎市人口月報

社会増減数 (転入出差＋市内間増減)

(単位：人)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6)
全 市	1,095	▲ 679	1,325	1,765	2,400	1,305
中央地区	400	272	104	235	591	191
小田地区	▲ 197	▲ 367	690	514	650	847
大庄地区	97	▲ 170	▲ 213	146	117	20
立花地区	382	▲ 56	124	352	792	410
武庫地区	▲ 8	▲ 299	▲ 243	140	▲ 38	▲ 30
園田地区	421	▲ 59	863	378	288	▲ 133

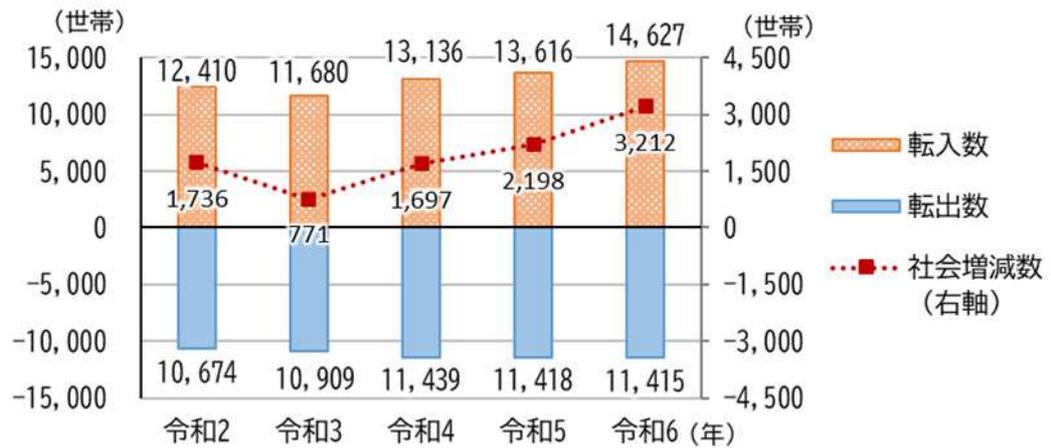
資料：尼崎市人口月報

4 単身世帯の社会動態

(1) 全市

令和6年の転入数は、前年より7.4%増加（1,011世帯）の14,627世帯となり、3年連続の増加となった。転出数は、前年より横ばいの11,415世帯となった。この結果、3,212世帯の転入超過となった。転入超過数は令和4年以降3年連続で増加している。

尼崎市の単身世帯の社会増減数



資料：尼崎市都市政策課

(2) 地区別

① 転入出

令和6年の転入数は、立花地区（3,504世帯）、園田地区（3,191世帯）、小田地区（2,546世帯）の順で多かった。令和2年と比べると6地区とも転入数が増加し、特に小田地区では41.3%の増加（744世帯）、大庄地区で22.5%の増加（265世帯）となった。

地区別 単身世帯における市外移動



資料：尼崎市都市政策課

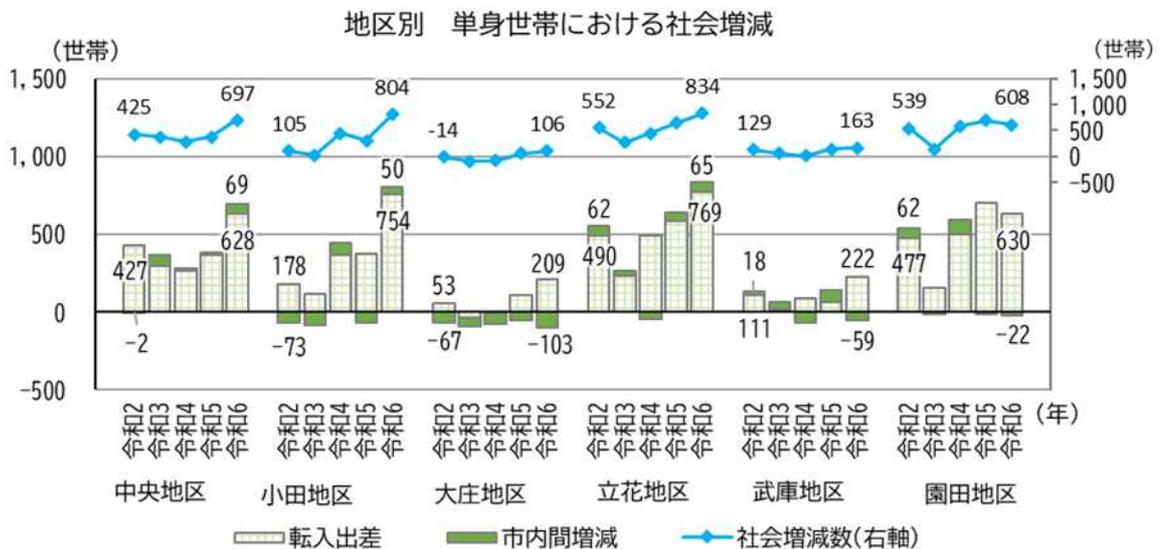
一方、転出数は、立花地区（2,735世帯）、園田地区（2,561世帯）が多かった。令和2年と比べると、武庫地区で0.7%の減少（12世帯）、ほか5地区は増加した。

転入出差をみると、令和6年は、6地区とも転入超過となり、立花地区（769世帯）、小田地区（754世帯）、園田地区（630世帯）、中央地区（628世帯）の順が多かった。

②市内間転居を含む社会増減

市外との転入・転出と市内間転居による増減の合計でみると、令和6年は、6地区とも社会増となった。増加数は、立花地区（834世帯）、小田地区（804世帯）、中央地区（697世帯）、園田地区（608世帯）の順が多かった。

内訳をみると、中央地区、小田地区、立花地区は、転入超過で市内間転居でも増加し、ほか3地区では、転入超過であるものの市内間転居は減少となった。



単身世帯の転入

(単位：世帯)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6)	
						実数	増加率
全 市	12,410	11,680	13,136	13,616	14,627	2,217	17.9%
中央地区	1,801	1,730	1,835	1,912	2,109	308	17.1%
小田地区	1,802	1,802	2,151	2,183	2,546	744	41.3%
大庄地区	1,177	1,104	1,223	1,368	1,442	265	22.5%
立花地区	3,043	2,798	3,160	3,188	3,504	461	15.1%
武庫地区	1,736	1,694	1,757	1,772	1,835	99	5.7%
園田地区	2,851	2,552	3,010	3,193	3,191	340	11.9%

資料：尼崎市都市政策課

単身世帯の転出

(単位：世帯)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6)	
						実数	増加率
全 市	10,674	10,909	11,439	11,418	11,415	741	6.9%
中央地区	1,374	1,436	1,573	1,545	1,481	107	7.8%
小田地区	1,624	1,688	1,784	1,813	1,792	168	10.3%
大庄地区	1,124	1,142	1,229	1,260	1,233	109	9.7%
立花地区	2,553	2,564	2,669	2,604	2,735	182	7.1%
武庫地区	1,625	1,681	1,673	1,708	1,613	▲ 12	▲ 0.7%
園田地区	2,374	2,398	2,511	2,488	2,561	187	7.9%

資料：尼崎市都市政策課

単身世帯の転入出差（転入－転出）

(単位：世帯)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6)
全 市	1,736	771	1,697	2,198	3,212	1,476
中央地区	427	294	262	367	628	201
小田地区	178	114	367	370	754	576
大庄地区	53	▲ 38	▲ 6	108	209	156
立花地区	490	234	491	584	769	279
武庫地区	111	13	84	64	222	111
園田地区	477	154	499	705	630	153

資料：尼崎市都市政策課

単身世帯の市内転居（転居元）

(単位：世帯)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6)	
						実数	増加率
全 市	7,340	7,403	7,274	7,175	7,464	124	1.7%
中央地区	1,138	1,104	1,076	1,125	1,071	▲ 67	▲ 5.9%
小田地区	1,161	1,156	1,102	1,182	1,162	1	0.1%
大庄地区	868	875	841	813	870	2	0.2%
立花地区	1,630	1,672	1,714	1,647	1,695	65	4.0%
武庫地区	1,095	1,130	1,045	929	1,077	▲ 18	▲ 1.6%
園田地区	1,448	1,466	1,496	1,479	1,589	141	9.7%

資料：尼崎市都市政策課

単身世帯の市内転居（転居先）

(単位：世帯)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6)	
						実数	増加率
全 市	7,340	7,403	7,274	7,175	7,464	124	1.7%
中央地区	1,136	1,179	1,095	1,136	1,140	4	0.4%
小田地区	1,088	1,067	1,182	1,112	1,212	124	11.4%
大庄地区	801	820	766	759	767	▲ 34	▲ 4.2%
立花地区	1,692	1,705	1,666	1,702	1,760	68	4.0%
武庫地区	1,113	1,180	978	1,002	1,018	▲ 95	▲ 8.5%
園田地区	1,510	1,452	1,587	1,464	1,567	57	3.8%

資料：尼崎市都市政策課

単身世帯の市内間増減

(単位：世帯)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6)
全 市	0	0	0	0	0	0
中央地区	▲ 2	75	19	11	69	71
小田地区	▲ 73	▲ 89	80	▲ 70	50	123
大庄地区	▲ 67	▲ 55	▲ 75	▲ 54	▲ 103	▲ 36
立花地区	62	33	▲ 48	55	65	3
武庫地区	18	50	▲ 67	73	▲ 59	▲ 77
園田地区	62	▲ 14	91	▲ 15	▲ 22	▲ 84

資料：尼崎市都市政策課

単身世帯の社会増減数（転入出差＋市内間増減）

(単位：世帯)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6)
全 市	1,736	771	1,697	2,198	3,212	1,476
中央地区	425	369	281	378	697	272
小田地区	105	25	447	300	804	699
大庄地区	▲ 14	▲ 93	▲ 81	54	106	120
立花地区	552	267	443	639	834	282
武庫地区	129	63	17	137	163	34
園田地区	539	140	590	690	608	69

資料：尼崎市都市政策課

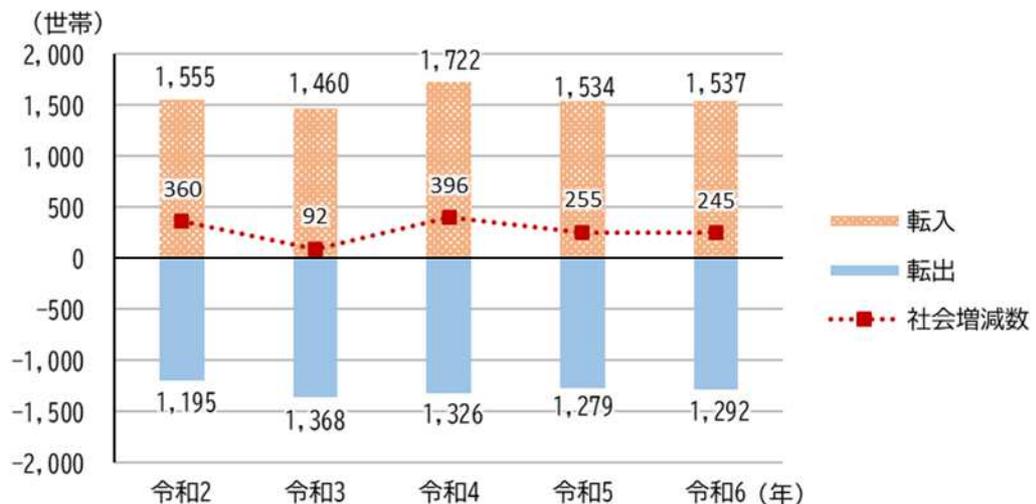
5 二人世帯の社会動態

(1) 全市

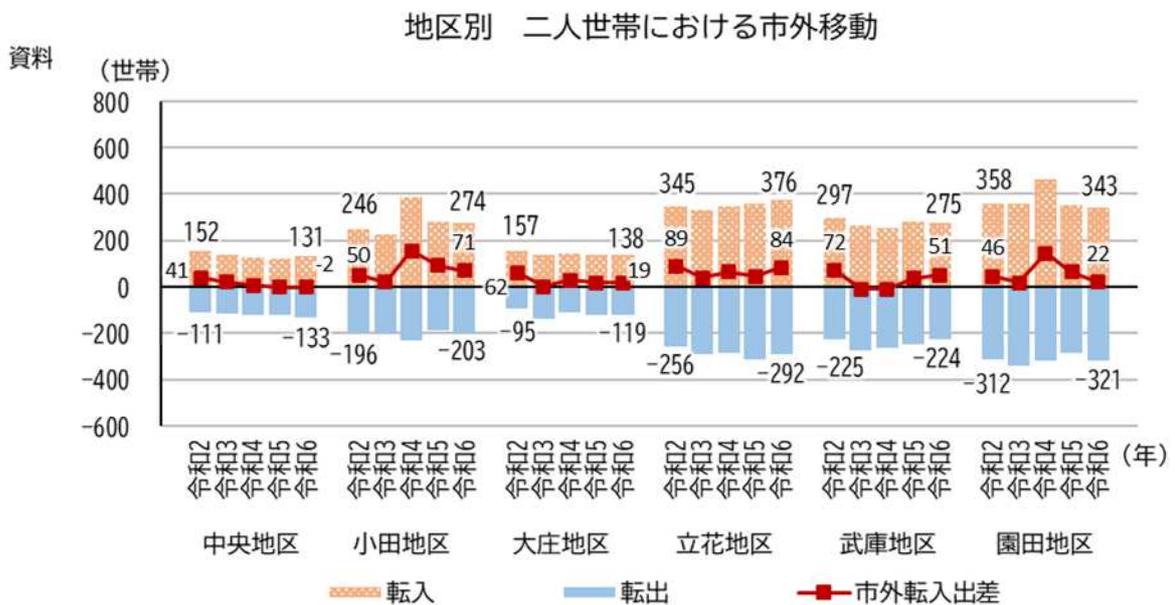
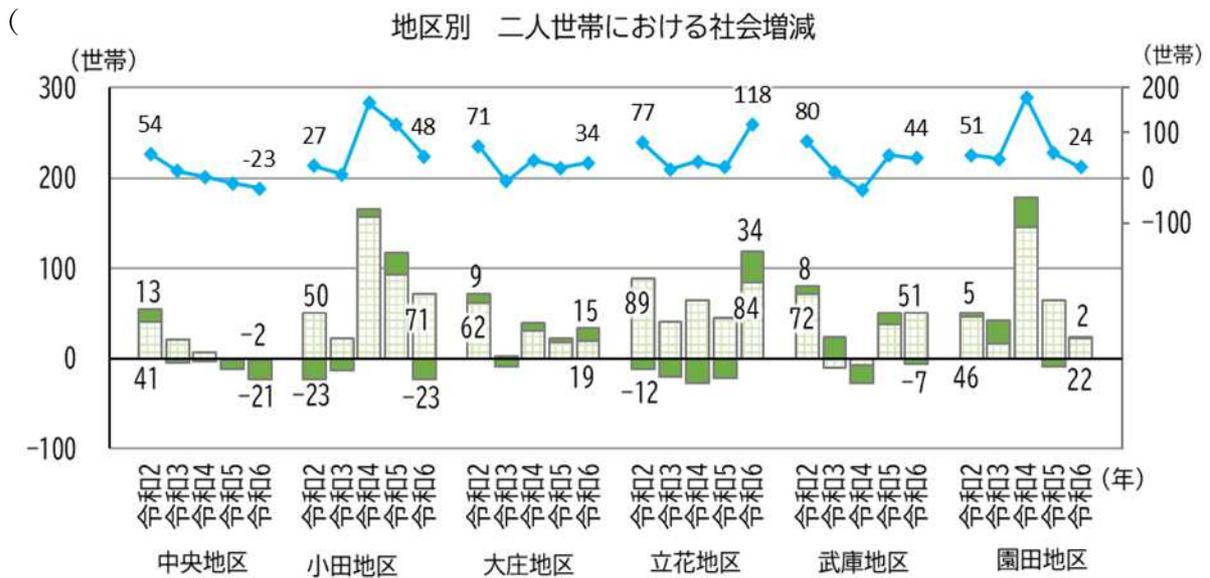
令和6年の転入数は1,537世帯で、前年より横ばい（0.2%増加、3世帯）となった。令和2年と比べると1.2%減少（▲18世帯）している。転出数は1,292世帯で、前年より1.0%増加（13世帯）、令和2年に比べると8.1%（97世帯）増加した。

社会増減数をみると、245世帯の転入超過となった。

尼崎市の二人世帯の社会増減



資料：尼崎市都市政策課



資料：尼崎市都市政策課

②市内間転居を含む社会増減

市外との転入・転出と市内間転居による増減の合計でみると、令和6年は、中央地区（▲23世帯）が社会減、ほか5地区は社会増となった。このうち、立花地区（118世帯）が100世帯を超えて、多かった。最近5年間の推移をみると、中央地区では2年連続の転出超過となり、小田地区、園田地区では2年連続で転入超過数が低下した。

令和6年の社会増減数の内訳をみると、立花地区、大庄地区、園田地区は転入超過で市内間増減も増加となり、小田地区、武庫地区は転入超過であるものの市内間増減は減少し、中央地区は転出超過で市内間増減も減少となった。

二人世帯の転入

(単位：世帯)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6)	
						実数	増加率
全 市	1,555	1,460	1,722	1,534	1,537	▲ 18	▲ 1.2%
中央地区	152	138	126	121	131	▲ 21	▲ 13.8%
小田地区	246	224	387	282	274	28	11.4%
大庄地区	157	138	142	138	138	▲ 19	▲ 12.1%
立花地区	345	333	348	358	376	31	9.0%
武庫地区	297	266	254	283	275	▲ 22	▲ 7.4%
園田地区	358	361	465	352	343	▲ 15	▲ 4.2%

資料：尼崎市都市政策課

二人世帯の転出

(単位：世帯)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6)	
						実数	増加率
全 市	1,195	1,368	1,326	1,279	1,292	97	8.1%
中央地区	111	118	119	123	133	22	19.8%
小田地区	196	202	230	189	203	7	3.6%
大庄地区	95	136	112	120	119	24	25.3%
立花地区	256	292	284	313	292	36	14.1%
武庫地区	225	276	262	246	224	▲ 1	▲ 0.4%
園田地区	312	344	319	288	321	9	2.9%

資料：尼崎市都市政策課

二人世帯の転入出差 (転入－転出)

(単位：世帯)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6)
全 市	360	92	396	255	245	▲ 115
中央地区	41	20	7	▲ 2	▲ 2	▲ 43
小田地区	50	22	157	93	71	21
大庄地区	62	2	30	18	19	▲ 43
立花地区	89	41	64	45	84	▲ 5
武庫地区	72	▲ 10	▲ 8	37	51	▲ 21
園田地区	46	17	146	64	22	▲ 24

資料：尼崎市都市政策課

二人世帯の市内転居 (転居元)

(単位：世帯)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6)	
						実数	増加率
全 市	1,835	1,756	1,813	1,629	1,519	▲ 316	▲ 17.2%
中央地区	229	233	208	189	163	▲ 66	▲ 28.8%
小田地区	304	239	344	256	238	▲ 66	▲ 21.7%
大庄地区	193	199	195	162	135	▲ 58	▲ 30.1%
立花地区	421	421	415	409	325	▲ 96	▲ 22.8%
武庫地区	311	325	286	270	311	0	0.0%
園田地区	377	339	365	343	347	▲ 30	▲ 8.0%

資料：尼崎市都市政策課

二人世帯の市内転居（転居先）

（単位：世帯）

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化（R2-R6）	
						実数	増加率
全 市	1,835	1,756	1,813	1,629	1,519	▲ 316	▲ 17.2%
中央地区	242	228	204	179	142	▲ 100	▲ 41.3%
小田地区	281	225	353	280	215	▲ 66	▲ 23.5%
大庄地区	202	190	204	166	150	▲ 52	▲ 25.7%
立花地区	409	400	388	387	359	▲ 50	▲ 12.2%
武庫地区	319	349	267	283	304	▲ 15	▲ 4.7%
園田地区	382	364	397	334	349	▲ 33	▲ 8.6%

資料：尼崎市都市政策課

二人世帯の市内間増減

（単位：世帯）

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化（R2-R6）
全 市	0	0	0	0	0	0
中央地区	13	▲ 5	▲ 4	▲ 10	▲ 21	▲ 34
小田地区	▲ 23	▲ 14	9	24	▲ 23	0
大庄地区	9	▲ 9	9	4	15	6
立花地区	▲ 12	▲ 21	▲ 27	▲ 22	34	46
武庫地区	8	24	▲ 19	13	▲ 7	▲ 15
園田地区	5	25	32	▲ 9	2	▲ 3

資料：尼崎市都市政策課

二人世帯の社会増減数（転入出差＋市内間増減）

（単位：世帯）

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化（R2-R6）
全 市	360	92	396	255	245	▲ 115
中央地区	54	15	3	▲ 12	▲ 23	▲ 77
小田地区	27	8	166	117	48	21
大庄地区	71	▲ 7	39	22	34	▲ 37
立花地区	77	20	37	23	118	41
武庫地区	80	14	▲ 27	50	44	▲ 36
園田地区	51	42	178	55	24	▲ 27

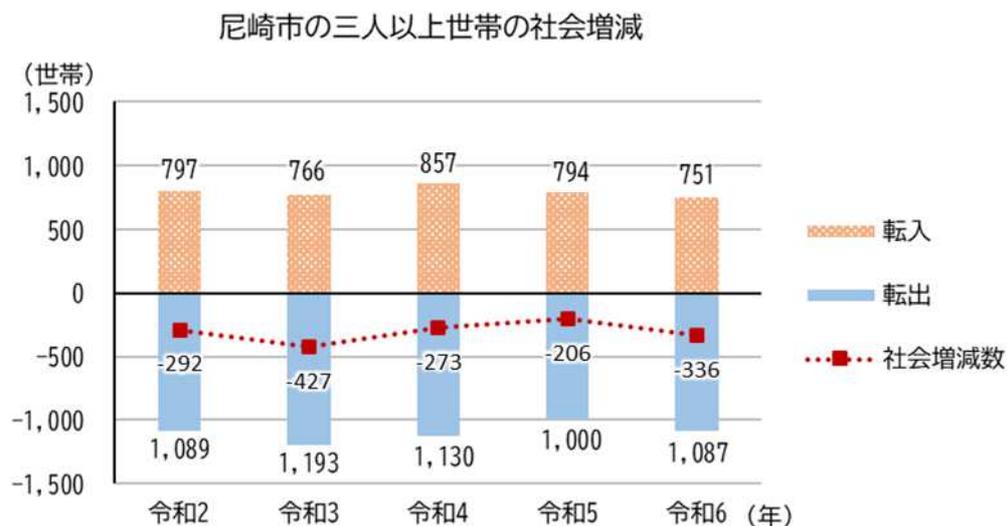
資料：尼崎市都市政策課

6 三人以上世帯の社会動態

(1) 全市

令和6年の転入数は751世帯で、前年より5.4%減少（▲43世帯）した。転出数は1,087世帯で、前年より8.7%増加（87世帯）した。

社会増減数をみると、336世帯の転出超過で、超過幅は前年より63.1%（130世帯）拡大した。



資料：尼崎市都市政策課

(2) 地区別

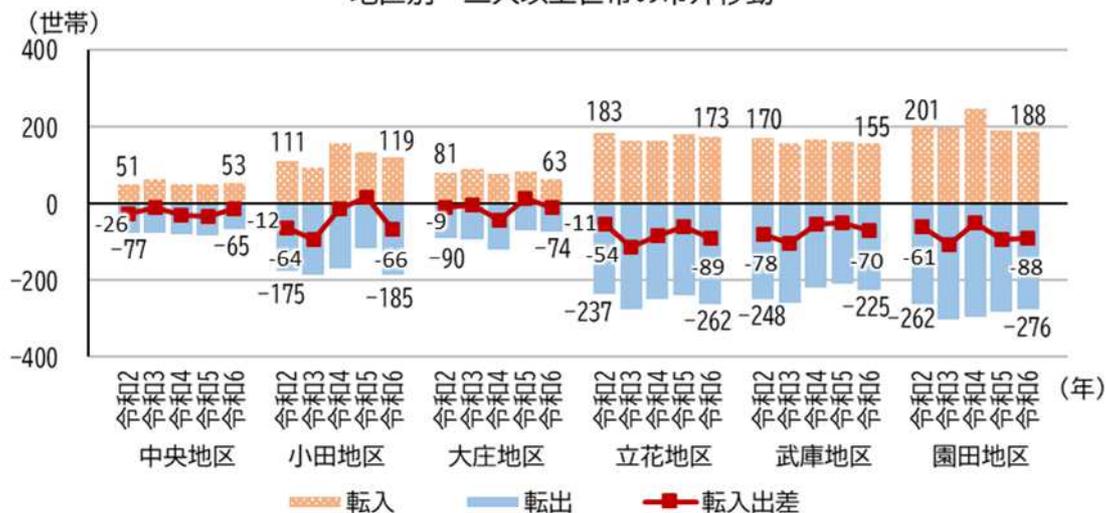
① 転入出

令和6年の転入数は、園田地区（188世帯）、立花地区（173世帯）武庫地区（155世帯）、小田地区（119世帯）の順が多かった。令和2年と比べると、中央地区、大庄地区は微増、ほか4地区は減少となった。

転出数は、園田地区（276世帯）、立花地区（262世帯）、武庫地区（225世帯）の順が多かった。令和2年と比べると、大庄地区で17.8%減少（▲16世帯）、中央地区で15.6%（▲12世帯）、武庫地区で9.3%減少（▲23世帯）となり、ほか3地区では増加となった。

転入出差をみると、令和6年は6地区とも転出超過となった。超過数は立花地区（▲89世帯）、園田地区（▲88世帯）、武庫地区（▲70世帯）、小田地区（▲66世帯）の順が多かった。

地区別 三人以上世帯の市外移動

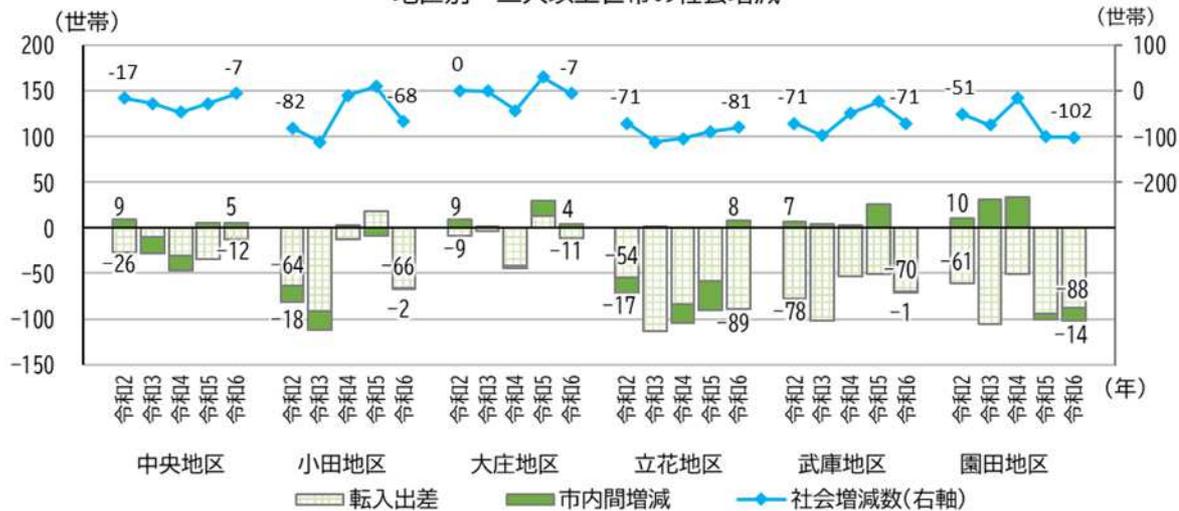


資料：尼崎市都市政策課

②市内間転居を含む社会増減

市外との転入・転出と市内間転居による増減の合計でみると、令和6年は、6地区とも社会減となり、園田地区（▲102世帯）、立花地区（▲81世帯）、武庫地区（▲71世帯）、小田地区（▲68世帯）の順で減少数が大きかった。最近5年間の推移をみると、

地区別 三人以上世帯の社会増減



資料：尼崎市都市政策課

小田地区、大庄地区が再び社会減に転じた一方で、中央地区では2年連続で、立花地区では3年連続で減少幅が縮小した。

令和6年の社会増減数の内訳をみると、園田地区、武庫地区、小田地区は転出超過で市内間増減でも減少し、ほか3地区は、転出超過だが、市内間増減では増加となっている。

三人以上世帯の転入

(単位：世帯)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6)	
						実数	増加率
全 市	797	766	857	794	751	▲ 46	▲ 5.8%
中央地区	51	65	49	49	53	2	3.9%
小田地区	111	94	157	134	119	8	7.2%
大庄地区	81	90	76	82	63	▲ 18	▲ 22.2%
立花地区	183	163	164	181	173	▲ 10	▲ 5.5%
武庫地区	170	157	166	159	155	▲ 15	▲ 8.8%
園田地区	201	197	245	189	188	▲ 13	▲ 6.5%

資料：尼崎市都市政策課

三人以上世帯の転出

(単位：世帯)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6)	
						実数	増加率
全 市	1,089	1,193	1,130	1,000	1,087	▲ 2	▲ 0.2%
中央地区	77	75	79	83	65	▲ 12	▲ 15.6%
小田地区	175	186	170	116	185	10	5.7%
大庄地区	90	94	118	69	74	▲ 16	▲ 17.8%
立花地区	237	276	248	239	262	25	10.5%
武庫地区	248	259	219	210	225	▲ 23	▲ 9.3%
園田地区	262	303	296	283	276	14	5.3%

資料：尼崎市都市政策課

三人以上世帯の転入出差 (転入－転出)

(単位：世帯)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6)
全 市	▲ 292	▲ 427	▲ 273	▲ 206	▲ 336	▲ 44
中央地区	▲ 26	▲ 10	▲ 30	▲ 34	▲ 12	14
小田地区	▲ 64	▲ 92	▲ 13	18	▲ 66	▲ 2
大庄地区	▲ 9	▲ 4	▲ 42	13	▲ 11	▲ 2
立花地区	▲ 54	▲ 113	▲ 84	▲ 58	▲ 89	▲ 35
武庫地区	▲ 78	▲ 102	▲ 53	▲ 51	▲ 70	8
園田地区	▲ 61	▲ 106	▲ 51	▲ 94	▲ 88	▲ 27

資料：尼崎市都市政策課

三人以上世帯の市内転居 (転居元)

(単位：世帯)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6)	
						実数	増加率
全 市	1,929	1,809	1,911	1,672	1,600	▲ 329	▲ 17.1%
中央地区	182	171	194	132	141	▲ 41	▲ 22.5%
小田地区	297	246	325	228	217	▲ 80	▲ 26.9%
大庄地区	225	172	187	166	168	▲ 57	▲ 25.3%
立花地区	446	423	431	392	406	▲ 40	▲ 9.0%
武庫地区	336	382	312	336	310	▲ 26	▲ 7.7%
園田地区	443	415	462	418	358	▲ 85	▲ 19.2%

資料：尼崎市都市政策課

三人以上世帯の市内転居（転居先）

（単位：世帯）

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化（R2-R6）	
						実数	増加率
全 市	1,929	1,809	1,911	1,672	1,600	▲ 329	▲ 17.1%
中央地区	191	153	177	138	146	▲ 45	▲ 23.6%
小田地区	279	226	328	219	215	▲ 64	▲ 22.9%
大庄地区	234	174	185	182	172	▲ 62	▲ 26.5%
立花地区	429	424	410	360	414	▲ 15	▲ 3.5%
武庫地区	343	386	315	362	309	▲ 34	▲ 9.9%
園田地区	453	446	496	411	344	▲ 109	▲ 24.1%

資料：尼崎市都市政策課

三人以上世帯の市内間増減

（単位：世帯）

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化（R2-R6）
全 市	0	0	0	0	0	0
中央地区	9	▲ 18	▲ 17	6	5	▲ 4
小田地区	▲ 18	▲ 20	3	▲ 9	▲ 2	16
大庄地区	9	2	▲ 2	16	4	▲ 5
立花地区	▲ 17	1	▲ 21	▲ 32	8	25
武庫地区	7	4	3	26	▲ 1	▲ 8
園田地区	10	31	34	▲ 7	▲ 14	▲ 24

資料：尼崎市都市政策課

三人以上世帯の社会増減数（転入出差＋市内間増減）

（単位：世帯）

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化（R2-R6）
全 市	▲ 292	▲ 427	▲ 273	▲ 206	▲ 336	▲ 44
中央地区	▲ 17	▲ 28	▲ 47	▲ 28	▲ 7	10
小田地区	▲ 82	▲ 112	▲ 10	9	▲ 68	14
大庄地区	0	▲ 2	▲ 44	29	▲ 7	▲ 7
立花地区	▲ 71	▲ 112	▲ 105	▲ 90	▲ 81	▲ 10
武庫地区	▲ 71	▲ 98	▲ 50	▲ 25	▲ 71	0
園田地区	▲ 51	▲ 75	▲ 17	▲ 101	▲ 102	▲ 51

資料：尼崎市都市政策課

7 年齢別及び転入元・転出先別の移動数

(1) 年齢別の移動数

令和6年における年齢10歳階級別の転入出をみると、20～29歳で転入が8,483人、転出が6,361人と、ともに突出して多く、次いで、30～39歳で転入が3,961人、転出が3,971人と多かった。0～9歳では、転入が906人、転出は1,428人となった。

社会増減数をみると、20～29歳（2,122人）、10～19歳（114人）、50～59歳（56人）が転入超過、0～9歳（▲522人）、60歳以上（▲154人）、30～39歳（▲10人）、40～49歳（▲6人）はが転出超過となった。

社会増減数を令和2年と比べると、転入超過数が拡大したのは20～29歳（813人）、転出超過数が縮小したのは、30～39歳（141人）、0～4歳（47人）であった。一方で、40～49歳が転出超過に転じている。



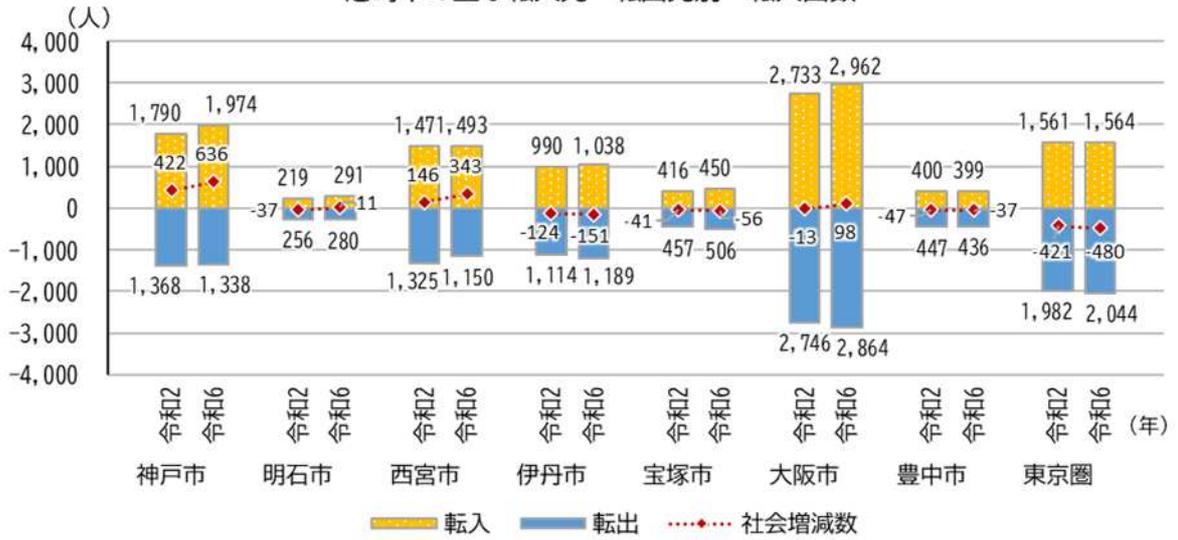
(2) 転入元・転出先別の移動数

市・地域別の転入数をみると、令和6年は、大阪市（2,962人）、神戸市（1,974人）、東京圏（1,564人）、西宮市（1,493人）の順で多かった。令和2年と比べると、転入数が拡大したのは大阪市（229人）、神戸市（184人）、明石市（72人）をはじめ、豊中市以外の市・地域であった。

一方、市・地域別の転出数は、大阪市（2,864人）、東京圏（2,044人）、神戸市（1,338人）の順で多かった。令和2年と比べると、転出数が縮小したのは、西宮市（175人）、神戸市（30人）、豊中市（11人）であった。

社会増減数をみると、令和6年は、転入超過となったのは、神戸市（636人）、西宮市（343人）、大阪市（98人）、明石市（11人）である。転出超過となったのは、東京圏（▲480人）、伊丹市（▲151人）、宝塚市（▲56人）、豊中市（▲37人）であった。

尼崎市の主な転入元・転出先別 転入出数



資料：尼崎市都市政策課

10歳階級別転入元別 転入数

(単位：人)

令和2年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	17,395	945	795	7,528	3,821	1,799	1,130	1,374	3
神戸市	1,790	62	65	821	445	152	100	145	0
明石市	219	12	11	105	54	15	11	11	0
西宮市	1,471	82	70	533	329	161	110	186	0
伊丹市	990	64	43	349	215	120	72	127	0
宝塚市	416	11	22	174	76	36	39	58	0
大阪市	2,733	157	79	1,090	746	312	182	167	0
豊中市	400	22	19	146	80	69	25	39	0
東京圏	1,561	139	66	616	348	204	117	71	0
その他	7,815	396	420	3,694	1,528	730	474	570	3
令和3年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	16,751	959	670	7,604	3,658	1,540	1,062	1,258	0
神戸市	1,708	76	50	822	421	138	91	110	0
明石市	266	11	14	126	65	25	6	19	0
西宮市	1,487	88	65	567	338	152	121	156	0
伊丹市	993	66	45	377	216	99	67	123	0
宝塚市	496	24	22	209	109	40	35	57	0
大阪市	2,643	170	61	1,116	734	255	155	152	0
豊中市	402	24	20	159	92	40	30	37	0
東京圏	1,423	110	35	604	308	177	131	58	0
その他	7,336	390	358	3,624	1,375	614	426	546	0
令和4年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	17,975	995	694	7,913	4,028	1,639	1,287	1,418	1
神戸市	1,949	80	82	910	465	168	99	145	0
明石市	240	12	15	114	58	19	17	5	0
西宮市	1,486	75	55	543	299	164	132	218	0
伊丹市	1,030	46	37	411	225	109	91	111	0
宝塚市	442	24	17	164	102	48	40	47	0
大阪市	2,946	175	76	1,274	802	269	192	158	0
豊中市	503	34	19	183	132	45	32	58	0
東京圏	1,595	135	31	668	365	158	164	74	0
その他	7,784	414	362	3,646	1,580	659	520	602	1
令和5年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	17,728	958	736	7,895	3,986	1,507	1,121	1,524	1
神戸市	1,937	102	73	904	451	153	108	146	0
明石市	246	13	16	108	58	20	15	16	0
西宮市	1,474	98	73	510	318	151	104	220	0
伊丹市	963	54	28	381	209	88	66	137	0
宝塚市	393	17	26	159	88	34	20	49	0
大阪市	2,879	157	89	1,211	815	251	158	198	0
豊中市	443	30	4	180	108	29	39	53	0
東京圏	1,453	117	47	609	325	154	129	72	0
その他	7,940	370	380	3,833	1,614	627	482	633	1
令和6年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	18,312	906	746	8,483	3,961	1,527	1,169	1,518	2
神戸市	1,974	72	71	982	423	147	96	183	0
明石市	291	12	16	148	58	18	19	20	0
西宮市	1,493	73	65	601	306	130	109	209	0
伊丹市	1,038	63	39	437	200	78	98	123	0
宝塚市	450	23	15	169	100	44	32	67	0
大阪市	2,962	152	83	1,357	757	254	161	198	0
豊中市	399	29	8	139	109	27	27	60	0
東京圏	1,564	105	42	682	371	179	133	52	0
その他	8,141	377	407	3,968	1,637	650	494	606	2

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(注) 各年とも外国人の移動を含む。

10歳階級別転出先別 転出数

(単位：人)

令和2年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	16,467	1,514	624	6,219	3,972	1,697	1,030	1,409	2
神戸市	1,368	131	32	510	341	158	84	112	0
明石市	256	37	11	89	63	31	11	14	0
西宮市	1,325	152	44	366	356	153	110	144	0
伊丹市	1,114	174	40	309	289	131	68	103	0
宝塚市	457	68	20	123	134	43	25	44	0
大阪市	2,746	112	71	1,227	681	255	157	243	0
豊中市	447	38	10	157	108	50	30	54	0
東京圏	1,982	147	86	919	445	202	110	73	0
その他	6,772	655	310	2,519	1,555	674	435	622	2
令和3年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	17,207	1,572	620	6,588	4,092	1,762	1,078	1,494	1
神戸市	1,458	144	37	578	346	148	96	109	0
明石市	219	32	11	81	64	7	4	20	0
西宮市	1,467	146	62	421	418	152	103	165	0
伊丹市	1,283	176	47	349	359	133	74	145	0
宝塚市	469	69	15	139	126	47	31	42	0
大阪市	2,766	101	65	1,266	628	274	155	277	0
豊中市	461	43	16	163	105	54	36	44	0
東京圏	1,907	131	78	886	407	211	127	67	0
その他	7,177	730	289	2,705	1,639	736	452	625	1
令和4年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	17,084	1,535	595	6,561	4,075	1,611	1,034	1,670	3
神戸市	1,388	123	40	538	364	130	77	116	0
明石市	261	41	11	106	66	17	5	15	0
西宮市	1,383	151	54	422	344	150	88	174	0
伊丹市	1,115	157	60	285	309	104	75	125	0
宝塚市	429	47	12	134	129	33	28	46	0
大阪市	2,737	111	69	1,192	671	240	168	286	0
豊中市	471	39	17	148	121	42	32	72	0
東京圏	1,999	152	70	957	432	192	102	94	0
その他	7,301	714	262	2,779	1,639	703	459	742	3
令和5年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	16,446	1,326	631	6,308	3,882	1,600	1,028	1,669	3
神戸市	1,245	86	38	480	307	118	80	136	0
明石市	282	41	21	106	72	17	7	18	0
西宮市	1,353	152	45	416	366	138	100	136	0
伊丹市	969	139	29	275	261	94	64	107	0
宝塚市	482	67	14	117	144	53	35	52	0
大阪市	2,745	115	91	1,192	658	259	141	289	0
豊中市	454	37	17	149	111	53	22	65	0
東京圏	2,020	99	83	1,011	402	209	107	109	0
その他	6,897	590	293	2,562	1,561	659	472	757	3
令和6年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	16,712	1,428	632	6,361	3,971	1,533	1,113	1,672	2
神戸市	1,338	106	41	534	346	118	79	114	0
明石市	280	40	13	116	72	16	11	12	0
西宮市	1,150	117	54	350	279	119	83	148	0
伊丹市	1,189	188	64	310	336	96	73	122	0
宝塚市	506	81	15	135	134	40	40	61	0
大阪市	2,864	121	107	1,235	660	281	166	294	0
豊中市	436	38	20	127	106	60	33	52	0
東京圏	2,044	140	64	986	467	177	122	88	0
その他	6,905	597	254	2,568	1,571	626	506	781	2

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(注) 各年とも外国人の移動を含む。

10歳階級別 転入元・転出先別 社会増減数

(単位：人)

令和2年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	928	▲ 569	171	1,309	▲ 151	102	100	▲ 35	1
神戸市	422	▲ 69	33	311	104	▲ 6	16	33	0
明石市	▲ 37	▲ 25	0	16	▲ 9	▲ 16	0	▲ 3	0
西宮市	146	▲ 70	26	167	▲ 27	8	0	42	0
伊丹市	▲ 124	▲ 110	3	40	▲ 74	▲ 11	4	24	0
宝塚市	▲ 41	▲ 57	2	51	▲ 58	▲ 7	14	14	0
大阪市	▲ 13	45	8	▲ 137	65	57	25	▲ 76	0
豊中市	▲ 47	▲ 16	9	▲ 11	▲ 28	19	▲ 5	▲ 15	0
東京圏	▲ 421	▲ 8	▲ 20	▲ 303	▲ 97	2	7	▲ 2	0
その他	1,043	▲ 259	110	1,175	▲ 27	56	39	▲ 52	1
令和3年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	▲ 456	▲ 613	50	1,016	▲ 434	▲ 222	▲ 16	▲ 236	▲ 1
神戸市	250	▲ 68	13	244	75	▲ 10	▲ 5	1	0
明石市	47	▲ 21	3	45	1	18	2	▲ 1	0
西宮市	20	▲ 58	3	146	▲ 80	0	18	▲ 9	0
伊丹市	▲ 290	▲ 110	▲ 2	28	▲ 143	▲ 34	▲ 7	▲ 22	0
宝塚市	27	▲ 45	7	70	▲ 17	▲ 7	4	15	0
大阪市	▲ 123	69	▲ 4	▲ 150	106	▲ 19	0	▲ 125	0
豊中市	▲ 59	▲ 19	4	▲ 4	▲ 13	▲ 14	▲ 6	▲ 7	0
東京圏	▲ 484	▲ 21	▲ 43	▲ 282	▲ 99	▲ 34	4	▲ 9	0
その他	158	▲ 340	69	919	▲ 264	▲ 122	▲ 26	▲ 79	▲ 1
令和4年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	891	▲ 540	99	1,352	▲ 47	28	253	▲ 252	▲ 2
神戸市	561	▲ 43	42	372	101	38	22	29	0
明石市	▲ 21	▲ 29	4	8	▲ 8	2	12	▲ 10	0
西宮市	103	▲ 76	1	121	▲ 45	14	44	44	0
伊丹市	▲ 85	▲ 111	▲ 23	126	▲ 84	5	16	▲ 14	0
宝塚市	13	▲ 23	5	30	▲ 27	15	12	1	0
大阪市	209	64	7	82	131	29	24	▲ 128	0
豊中市	32	▲ 5	2	35	11	3	0	▲ 14	0
東京圏	▲ 404	▲ 17	▲ 39	▲ 289	▲ 67	▲ 34	62	▲ 20	0
その他	483	▲ 300	100	867	▲ 59	▲ 44	61	▲ 140	▲ 2
令和5年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	1,282	▲ 368	105	1,587	104	▲ 93	93	▲ 145	▲ 2
神戸市	692	16	35	424	144	35	28	10	0
明石市	▲ 36	▲ 28	▲ 5	2	▲ 14	3	8	▲ 2	0
西宮市	121	▲ 54	28	94	▲ 48	13	4	84	0
伊丹市	▲ 6	▲ 85	▲ 1	106	▲ 52	▲ 6	2	30	0
宝塚市	▲ 89	▲ 50	12	42	▲ 56	▲ 19	▲ 15	▲ 3	0
大阪市	134	42	▲ 2	19	157	▲ 8	17	▲ 91	0
豊中市	▲ 11	▲ 7	▲ 13	31	▲ 3	▲ 24	17	▲ 12	0
東京圏	▲ 567	18	▲ 36	▲ 402	▲ 77	▲ 55	22	▲ 37	0
その他	1,043	▲ 220	87	1,271	53	▲ 32	10	▲ 124	▲ 2
令和6年	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳
総数	1,600	▲ 522	114	2,122	▲ 10	▲ 6	56	▲ 154	0
神戸市	636	▲ 34	30	448	77	29	17	69	0
明石市	11	▲ 28	3	32	▲ 14	2	8	8	0
西宮市	343	▲ 44	11	251	27	11	26	61	0
伊丹市	▲ 151	▲ 125	▲ 25	127	▲ 136	▲ 18	25	1	0
宝塚市	▲ 56	▲ 58	0	34	▲ 34	4	▲ 8	6	0
大阪市	98	31	▲ 24	122	97	▲ 27	▲ 5	▲ 96	0
豊中市	▲ 37	▲ 9	▲ 12	12	3	▲ 33	▲ 6	8	0
東京圏	▲ 480	▲ 35	▲ 22	▲ 304	▲ 96	2	11	▲ 36	0
その他	1,236	▲ 220	153	1,400	66	24	▲ 12	▲ 175	0

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(注) 各年とも外国人の移動を含む。

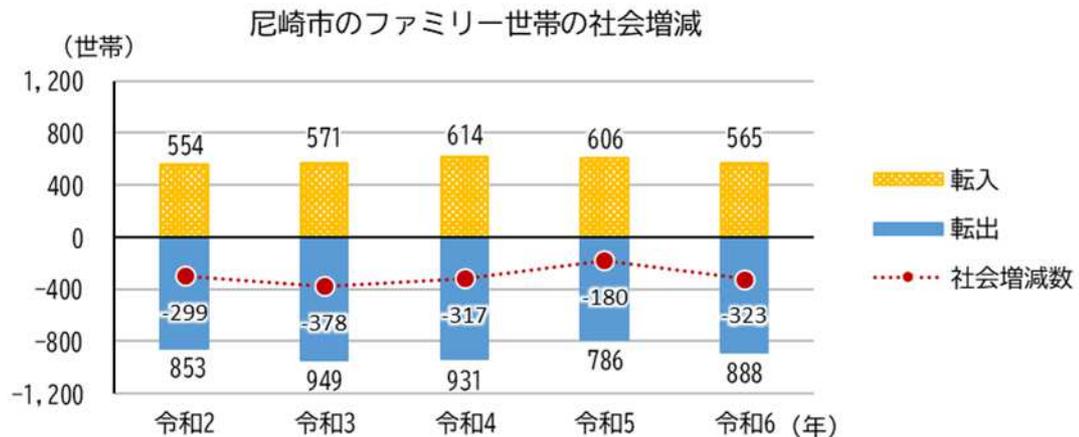
Ⅲ ファミリー世帯の社会動態

1 社会動態

(1) 全市

ファミリー世帯（本報告書では、世帯主と5歳未満の子どもがいる世帯を指す。）の社会動態をみると、令和6年は、転入数は565世帯で、前年より6.8%減少（41世帯）、転出数は888世帯で、前年より13.0%増加（102世帯）となった。このため、323世帯の社会減となった。

また、社会増減数の推移をみると、転入数は2年連続で減少、転出数は令和4年～5年に減少したものの、3年ぶりの増加となった。



資料：尼崎市都市政策課

(2) 地区別

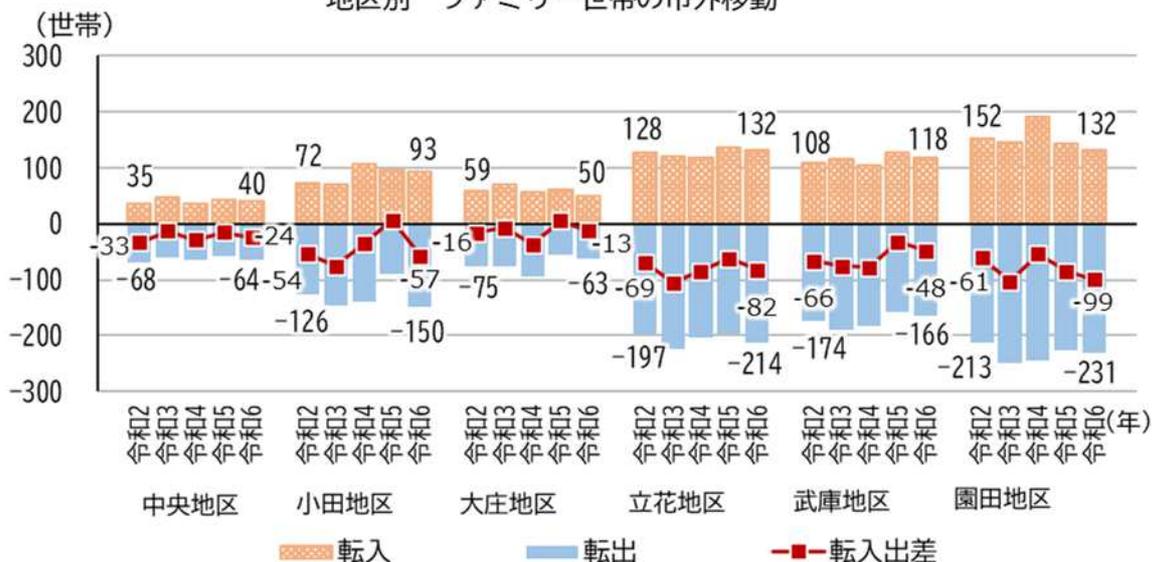
① 転入出

令和6年の転入数は、立花地区、園田地区（ともに132世帯）、武庫地区（118世帯）の順が多かった。6地区とも転入数が前年より減少したものの、令和2年と比べると、小田地区で29.2%（21世帯）、中央地区で14.3%（5世帯）、武庫地区で9.3%（10世帯）、立花地区で3.1%（4世帯）多くなっている。

令和6年の転出数は、園田地区（231世帯）、立花地区（214世帯）、武庫地区（166世帯）、小田地区（150世帯）の順が多かった。6地区とも前年より増加したが、令和2年と比べると、大庄地区で16.0%（▲12世帯）、中央地区で5.9%（▲4世帯）、武庫地区で4.6%（▲8世帯）少なくなっている。

転入出差をみると、令和6年は6地区とも転出超過で、小田地区（▲57世帯）、大庄地区（▲13世帯）は、前年の転入超過からと再び転出超過となった。また、園田地区（▲99世帯）、立花地区（▲82世帯）の順で超過数が多かった。令和2年からの5年間でみると、中央地区と北部3地区は、一貫して転出超過が続いている。

地区別 ファミリー世帯の市外移動



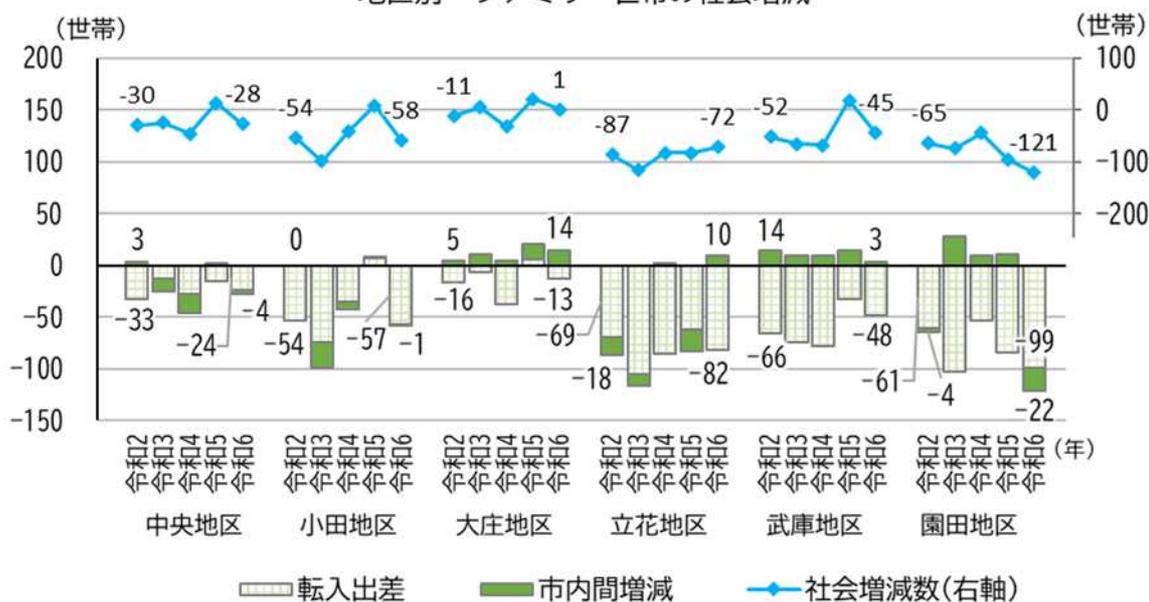
資料：尼崎市都市政策課

②市内間転居を含む社会増減

市外との転入・転出と市内間転居による増減の合計で見ると、令和6年は、大庄地区のみ社会増（1世帯）、ほか5地区は社会減となり、減少数は園田地区（▲121世帯）、立花地区（▲72世帯）、小田地区（▲58世帯）の順が多かった。最近5年間の推移をみると、立花地区、園田地区は社会減が続き、大庄地区は令和3年、5年、6年に若干の社会増となり、中央地区、小田地区、武庫地区は令和5年に社会増となった。

また、令和6年の社会増減数の内訳をみると、大庄地区、立花地区、武庫地区は、転出超過だが市内間では増加、中央地区、小田地区、園田地区は、転出超過で市内間でも減少となった。

地区別 ファミリー世帯の社会増減



資料：尼崎市都市政策課

ファミリー世帯の転入数 (単位：世帯)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6年度)	
						実数	増加率
全 市	554	571	614	606	565	11	2.0%
中央地区	35	48	36	42	40	5	14.3%
小田地区	72	71	106	96	93	21	29.2%
大庄地区	59	70	57	62	50	▲ 9	▲ 15.3%
立花地区	128	120	118	136	132	4	3.1%
武庫地区	108	116	105	127	118	10	9.3%
園田地区	152	146	192	143	132	▲ 20	▲ 13.2%

資料：尼崎市都市政策課

ファミリー世帯の転出数 (単位：世帯)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6年度)	
						実数	増加率
全 市	853	949	931	786	888	35	4.1%
中央地区	68	61	64	57	64	▲ 4	▲ 5.9%
小田地区	126	146	141	89	150	24	19.0%
大庄地区	75	77	94	56	63	▲ 12	▲ 16.0%
立花地区	197	225	203	198	214	17	8.6%
武庫地区	174	191	183	159	166	▲ 8	▲ 4.6%
園田地区	213	249	246	227	231	18	8.5%

資料：尼崎市都市政策課

ファミリー世帯の転入出差 (転入－転出) (単位：世帯)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6)
全 市	▲ 299	▲ 378	▲ 317	▲ 180	▲ 323	▲ 24
中央地区	▲ 33	▲ 13	▲ 28	▲ 15	▲ 24	9
小田地区	▲ 54	▲ 75	▲ 35	7	▲ 57	▲ 3
大庄地区	▲ 16	▲ 7	▲ 37	6	▲ 13	3
立花地区	▲ 69	▲ 105	▲ 85	▲ 62	▲ 82	▲ 13
武庫地区	▲ 66	▲ 75	▲ 78	▲ 32	▲ 48	18
園田地区	▲ 61	▲ 103	▲ 54	▲ 84	▲ 99	▲ 38

資料：尼崎市都市政策課

ファミリー世帯の市内転居 (転居元) (単位：世帯)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6年度)	
						実数	増加率
全 市	1,184	1,152	1,241	1,084	1,013	▲ 171	▲ 14.4%
中央地区	114	107	117	83	89	▲ 25	▲ 21.9%
小田地区	178	159	225	149	137	▲ 41	▲ 23.0%
大庄地区	140	105	121	104	98	▲ 42	▲ 30.0%
立花地区	282	277	284	261	256	▲ 26	▲ 9.2%
武庫地区	192	219	178	201	191	▲ 1	▲ 0.5%
園田地区	278	285	316	286	242	▲ 36	▲ 12.9%

資料：尼崎市都市政策課

ファミリー世帯の市内転居（転居先）

(単位：世帯)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化（R2-R6年度）	
						実数	増加率
全 市	1,184	1,152	1,241	1,084	1,013	▲ 171	▲ 14.4%
中央地区	117	95	99	85	85	▲ 32	▲ 27.4%
小田地区	178	135	218	150	136	▲ 42	▲ 23.6%
大庄地区	145	116	125	119	112	▲ 33	▲ 22.8%
立花地区	264	265	286	240	266	2	0.8%
武庫地区	206	228	188	215	194	▲ 12	▲ 5.8%
園田地区	274	313	325	275	220	▲ 54	▲ 19.7%

資料：尼崎市都市政策課

ファミリー世帯の市内間増減

(単位：世帯)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6)
全 市	0	0	0	0	0	0
中央地区	3	▲ 12	▲ 18	2	▲ 4	▲ 7
小田地区	0	▲ 24	▲ 7	1	▲ 1	▲ 1
大庄地区	5	11	4	15	14	9
立花地区	▲ 18	▲ 12	2	▲ 21	10	28
武庫地区	14	9	10	14	3	▲ 11
園田地区	▲ 4	28	9	11	▲ 22	▲ 18

資料：尼崎市都市政策課

ファミリー世帯の社会増減数（転入出差＋市内間増減）

(単位：世帯)

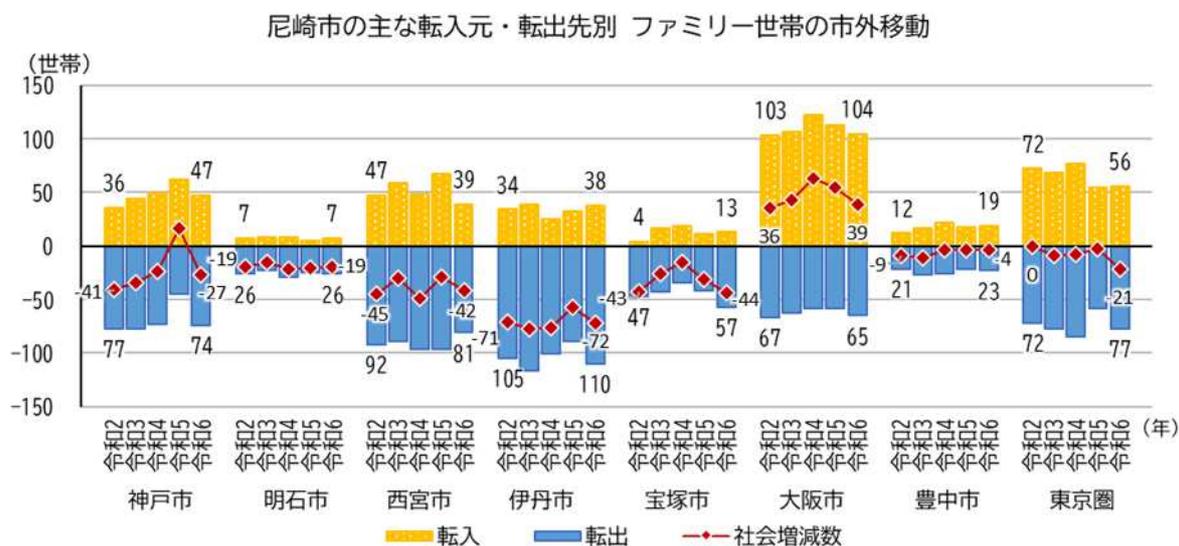
	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6)
全 市	▲ 299	▲ 378	▲ 317	▲ 180	▲ 323	▲ 24
中央地区	▲ 30	▲ 25	▲ 46	13	▲ 28	2
小田地区	▲ 54	▲ 99	▲ 42	8	▲ 58	▲ 4
大庄地区	▲ 11	4	▲ 33	21	1	12
立花地区	▲ 87	▲ 117	▲ 83	▲ 83	▲ 72	15
武庫地区	▲ 52	▲ 66	▲ 68	18	▲ 45	7
園田地区	▲ 65	▲ 75	▲ 45	▲ 95	▲ 121	▲ 56

資料：尼崎市都市政策課

2 転入元・転出先別の移動数

市・地域別の転入数をみると、令和6年は、主な転入元の市・地域のなかで大阪市（104世帯）、東京圏（56世帯）、神戸市（47世帯）、西宮市（39世帯）、伊丹市（38世帯）の順で多かった。また、転出数をみると、伊丹市（▲110世帯）、西宮市（▲81世帯）、東京圏（▲77世帯）、神戸市（▲74世帯）、大阪市（▲65世帯）の順で多かった。大都市と近隣市との移動数が多いことがうかがえる。令和2年と比べると、転入数が拡大したのは神戸市（11世帯）など6市、縮小したのは東京圏（▲16世帯）、西宮市（▲8世帯）の1市1地域であった。

社会増減数をみると、大阪市（39世帯）のみ転入超過、そのほかは転出超過となった。超過数は、伊丹市（▲72世帯）、宝塚市（▲44世帯）、西宮市（▲42世帯）の順で多く、近隣3市への転出が多かった。



ファミリー世帯の転入元別転入数

(単位：世帯)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6年度)	
						実数	増加率
合計	554	571	614	606	565	11	2.0%
神戸市	36	44	49	62	47	11	30.6%
明石市	7	8	8	5	7	0	0.0%
西宮市	47	59	48	67	39	▲ 8	▲ 17.0%
伊丹市	34	39	25	32	38	4	11.8%
宝塚市	4	17	19	11	13	9	225.0%
大阪市	103	106	122	113	104	1	1.0%
豊中市	12	16	22	18	19	7	58.3%
東京圏	72	68	77	55	56	▲ 16	▲ 22.2%
その他	239	214	244	243	242	3	1.3%

資料：尼崎市都市政策課

ファミリー世帯の転出先別転出数

(単位：世帯)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	変化 (R2-R6年度)	
						実数	増加率
合 計	853	949	931	786	888	35	4.1%
神戸市	77	78	73	45	74	▲ 3	▲ 3.9%
明石市	26	23	29	25	26	0	0.0%
西宮市	92	89	97	96	81	▲ 11	▲ 12.0%
伊丹市	105	117	101	89	110	5	4.8%
宝塚市	47	43	34	42	57	10	21.3%
大阪市	67	63	59	59	65	▲ 2	▲ 3.0%
豊中市	21	27	26	22	23	2	9.5%
東京圏	72	77	85	58	77	5	6.9%
その他	346	432	427	350	375	29	8.4%

資料：尼崎市都市政策課

3 町丁目別移動

ファミリー世帯の社会増減を詳細に把握するために、地区ごとに転入・転出超過数が多い町丁目を掲出した。令和6年に転入超過となった町丁目では、立花地区の「武庫之荘東2丁目」(27世帯)の超過数が最も大きく、次いで、武庫地区の「武庫之荘4丁目」(14世帯)、同「武庫之荘本町1丁目」(12世帯)、園田地区の「若王寺3丁目」(11世帯)と続いた。

転出超過となった町丁目を見ると、園田地区の「南塚口町3丁目」(19世帯)、同「南塚口町1丁目」及び「南清水」(ともに14世帯)、武庫地区の「南武庫之荘7丁目」(14世帯)という順で超過数が多かった。

一方で、最近5年間で、転入超過が多かったところを見ると、立花地区の「尾浜町2丁目」及び「富松町4丁目」、園田地区の「若王寺3丁目」の3地区は、4ヵ年で名前が挙がっている。3ヵ年について名前が挙がった町丁目も、7地区あった。

最近5年間の転出超過が多かったところでは、小田地区「額田町」、大庄地区「大庄川田町」、園田地区「南塚口町3丁目」の3地区は毎年、立花地区「塚口本町1丁目」、武庫地区の「南武庫之荘1丁目」、「南武庫之荘5丁目」、「南武庫之荘7丁目」、園田地区「東園田町5丁目」及び「南塚口町5丁目」は4ヵ年について名前が見える。ファミリー世帯の転入と転出が特定の地域で多くみられる様子がうかがえる。

町丁目別 ファミリー世帯の転入超過数（上位5位、単位：世帯）

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年					
地 中 央 区	西大物町	16	北大物町	7	西難波町6丁目	5	西難波町2丁目	8	西難波町3丁目	5
	東難波町4丁目	5			西大物町	5	東難波町4丁目	5		
小 田 地 区	長洲中通3丁目	8	長洲中通3丁目	7	長洲西通1丁目	72	長洲西通1丁目	8	(該当なし)	
	常光寺1丁目	7	長洲中通2丁目	6	次屋3丁目	7	常光寺1丁目	6		
	杭瀬寺島1丁目	6	神崎町	5	今福1丁目	6	久々知1丁目	5		
	長洲東通1丁目	6			久々知1丁目	5	潮江1丁目	5		
	杭瀬北新町3丁目	5					浜3丁目	5		
						常光寺2丁目	5			
大 庄 地 区	蓬川町	6	大庄西町4丁目	21	大島3丁目	8	大庄西町3丁目	12	大庄西町1丁目	6
	大庄西町4丁目	6	大庄北1丁目	6	大庄北5丁目	7	大島2丁目	10	大島2丁目	6
	稲葉元町3丁目	5	菜切山町	5	大島2丁目	5	浜田町4丁目	6	大庄西町3丁目	5
	大庄北5丁目	5					大庄西町2丁目	5		
立 花 地 区	富松町4丁目	10	尾浜町2丁目	10	南武庫之荘2丁目	8	立花町1丁目	34	武庫之荘東2丁目	27
	富松町2丁目	9	栗山町2丁目	10	塚口町3丁目	6	富松町4丁目	15	富松町4丁目	9
	水堂町2丁目	8	富松町4丁目	8	大西町1丁目	6	塚口町4丁目	7	水堂町2丁目	6
	塚口町4丁目	7	上ノ島町2丁目	7	尾浜町2丁目	5	尾浜町1丁目	6	武庫豊町2丁目	5
	三反田町1丁目	6	南塚口町8丁目	5	栗山町2丁目	5	尾浜町2丁目	5	塚口本町7丁目	5
武 庫 地 区	武庫之荘西2丁目	9	西昆陽2丁目	11	西昆陽2丁目	10	武庫之荘本町2丁目	17	武庫之荘4丁目	14
	武庫の里2丁目	7	武庫之荘本町2丁目	10	武庫之荘5丁目	6	西昆陽2丁目	14	武庫之荘本町1丁目	12
	武庫町2丁目	6	若王寺3丁目	8	武庫の里2丁目	6	武庫之荘本町1丁目	10	武庫豊町2丁目	9
	武庫豊町3丁目	5	武庫之荘8丁目	8	武庫之荘7丁目	5	武庫之荘8丁目	7	武庫豊町3丁目	9
	武庫之荘本町1丁目	5	武庫の里2丁目	8			南武庫之荘8丁目	5	武庫之荘8丁目	7
園 田 地 区	東塚口町1丁目	48	南塚口町6丁目	28	小中島1丁目	58	若王寺3丁目	22	若王寺3丁目	11
	若王寺2丁目	8	若王寺3丁目	24	食満5丁目	36	食満5丁目	20	食満5丁目	7
	東園田町3丁目	6	田能1丁目	16	若王寺3丁目	15	若王寺1丁目	6	若王寺1丁目	6
	南塚口町6丁目	6	食満7丁目	7	田能3丁目	12	田能4丁目	6	南塚口町6丁目	5
	戸ノ内町2丁目	5	東園田町8丁目	6	食満7丁目	11	食満3丁目	6	瓦宮2丁目	5

資料：尼崎市都市政策課

(注1) 市内転居による地区間移動を含む

(注2) 4世帯以下の町丁目は、上位5位内でも省略

町丁目別 ファミリー世帯の転出超過数（上位5位、単位：世帯）

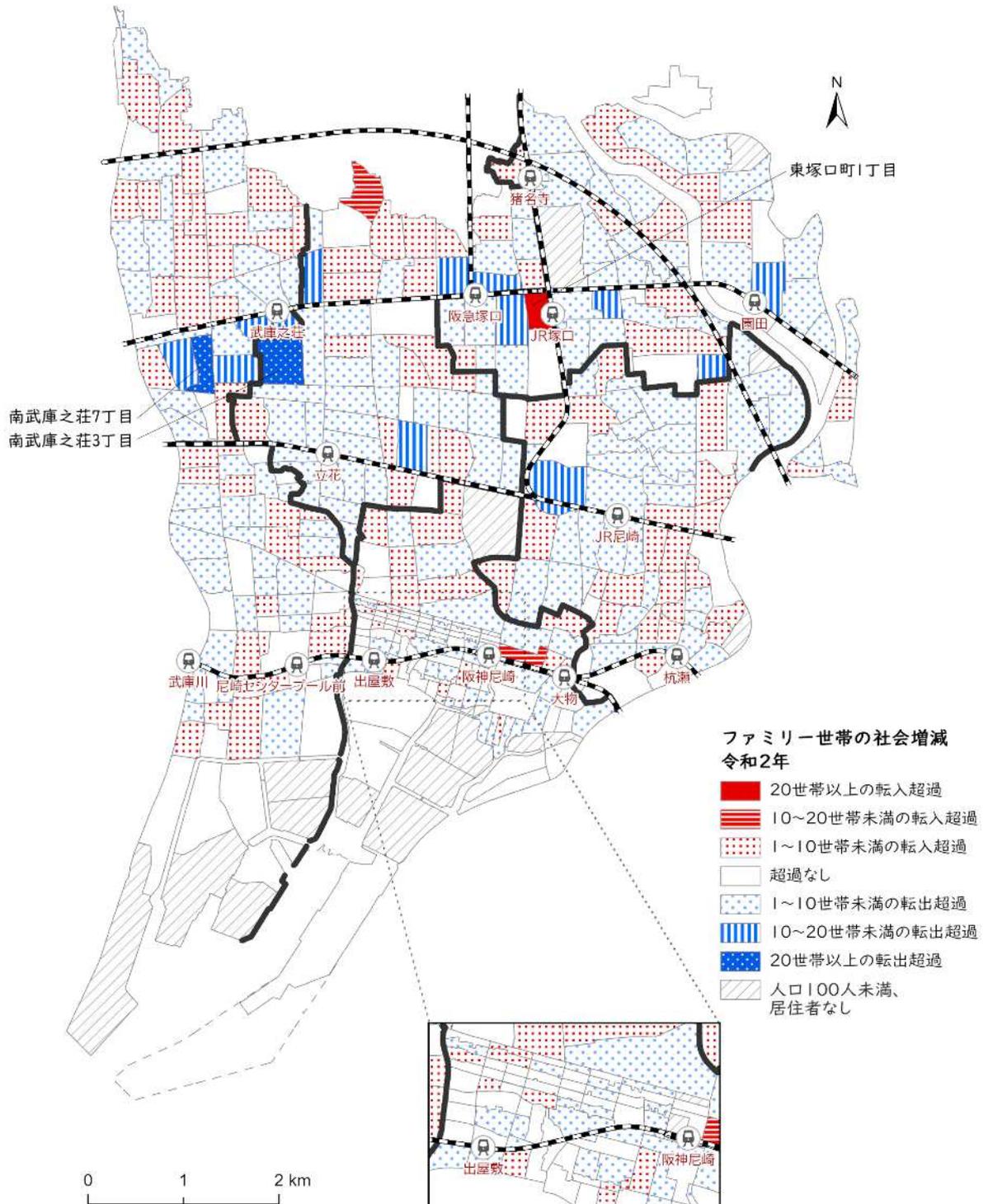
	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年					
中 央 地 区	東難波町3丁目	9	東難波町5丁目	10	御園町	7	東難波町3丁目	8	東難波町4丁目	7
	昭和通2丁目	6			西難波町2丁目	6	西大物町	7	東難波町5丁目	5
	神田北通4丁目	5			東難波町5丁目	6			西大物町	5
	大物町2丁目	5			建家町	5				
					開明町2丁目	5				
小 田 地 区	潮江5丁目	15	潮江1丁目	16	潮江1丁目	24	善法寺町	6	額田町	12
	額田町	9	西川2丁目	11	額田町	13	長洲本通1丁目	6	長洲本通1丁目	8
	神崎町	7	潮江3丁目	7	西川2丁目	12	潮江5丁目	5	浜3丁目	6
	今福1丁目	7	額田町	6	潮江2丁目	10	額田町	5	金楽寺町1丁目	6
	潮江2丁目	6	善法寺町	6	潮江5丁目	9			下坂部3丁目	5
長洲東通3丁目	6	長洲本通1丁目	9							
大 庄 地 区	大庄川田町	6	大庄川田町	6	浜田町3丁目	7	大庄西町4丁目	11	大庄川田町	10
	大庄中通1丁目	6			大庄川田町	7	大庄川田町	6	大島1丁目	6
	大庄西町1丁目	6			稲葉荘2丁目	7			稲葉元町2丁目	5
	浜田町3丁目	5			稲葉元町2丁目	6				
				大島1丁目	6					
立 花 地 区	南武庫之荘3丁目	22	塚口本町1丁目	18	上ノ島町1丁目	18	南塚口町8丁目	16	塚口町1丁目	13
	塚口町1丁目	14	七松町2丁目	13	塚口本町1丁目	14	塚口本町1丁目	15	南塚口町8丁目	12
	武庫之荘東2丁目	13	南武庫之荘3丁目	13	塚口町1丁目	13	南武庫之荘2丁目	12	上ノ島町3丁目	11
	三反田町2丁目	11	南武庫之荘2丁目	10	立花町2丁目	12	富松町1丁目	12	南武庫之荘2丁目	10
	塚口本町1丁目	11	武庫之荘東2丁目	10	東七松町1丁目	11	上ノ島町3丁目	12	七松町3丁目	9
				七松町3丁目	11					
				上ノ島町3丁目	11					
武 庫 地 区	南武庫之荘7丁目	20	武庫之荘2丁目	11	南武庫之荘7丁目	25	南武庫之荘4丁目	16	南武庫之荘7丁目	14
	南武庫之荘1丁目	17	武庫町2丁目	11	南武庫之荘4丁目	15	南武庫之荘5丁目	14	南武庫之荘5丁目	12
	南武庫之荘4丁目	13	武庫之荘1丁目	10	武庫元町1丁目	14	武庫之荘2丁目	9	武庫町1丁目	11
	南武庫之荘8丁目	12	南武庫之荘5丁目	10	南武庫之荘6丁目	11	南武庫之荘1丁目	9	南武庫之荘1丁目	10
	南武庫之荘5丁目	8	南武庫之荘7丁目	10	武庫之荘1丁目	10	武庫町1丁目	8	南武庫之荘6丁目	9
				南武庫之荘1丁目	10					
園 田 地 区	東園田町5丁目	14	南清水	18	南塚口町3丁目	20	南塚口町3丁目	23	南塚口町3丁目	19
	南塚口町3丁目	14	南塚口町3丁目	16	椎堂1丁目	18	南塚口町5丁目	17	南塚口町1丁目	14
	小中島3丁目	11	上坂部2丁目	16	上坂部1丁目	12	東園田町8丁目	12	南清水	14
	御園3丁目	11	南塚口町5丁目	12	御園3丁目	12	御園1丁目	11	御園2丁目	13
	南塚口町5丁目	9	東園田町5丁目	11	上坂部2丁目	11	東園田町5丁目	10	東園田町2丁目	12
	南清水	9			御園1丁目	11	御園1丁目	10	東園田町5丁目	12
								南塚口町5丁目	12	

資料：尼崎市都市政策課

(注1) 市内転居による地区間移動を含む

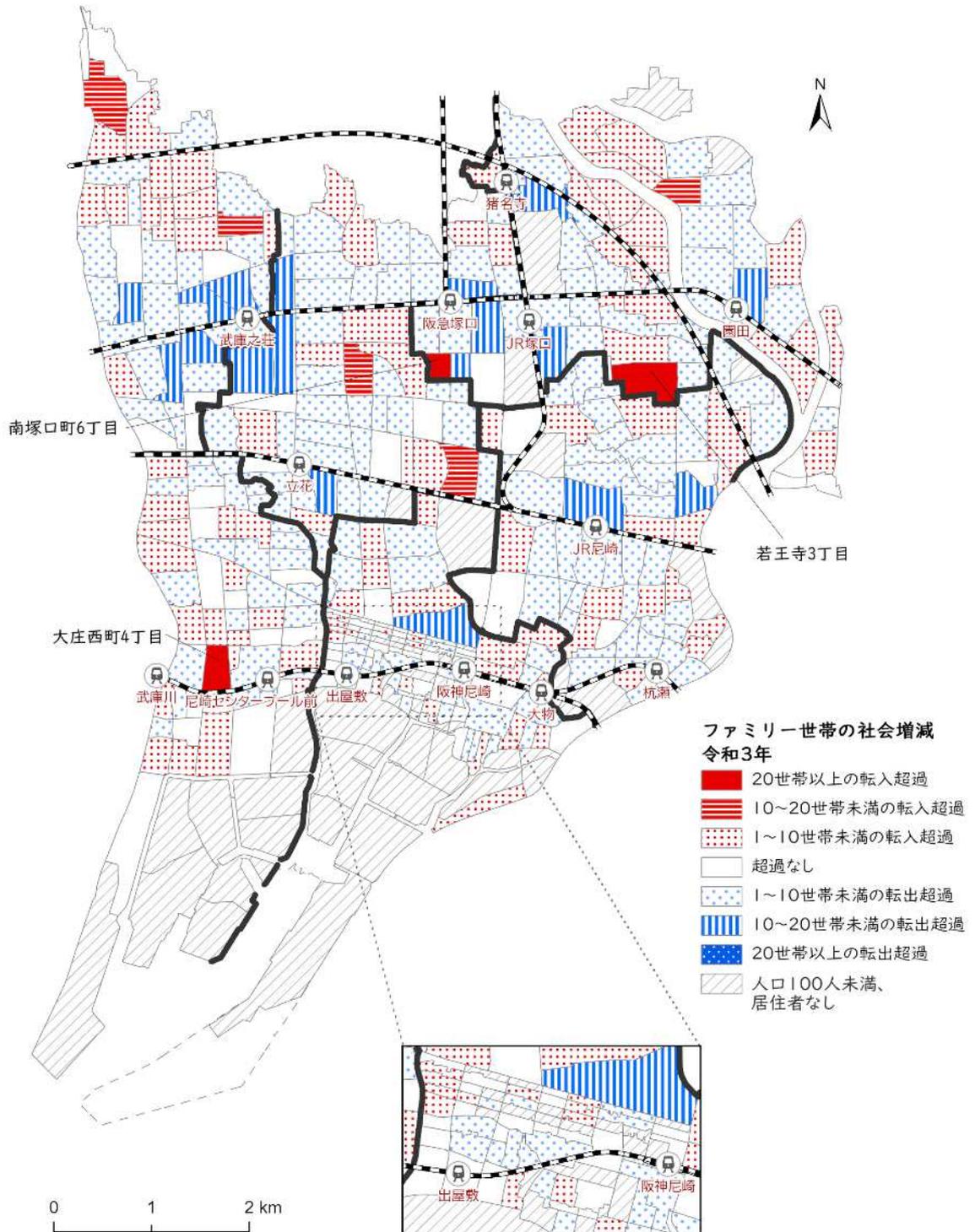
(注2) 4世帯以下の町丁目は、上位5位内でも省略

町丁目別 ファミリー世帯の社会増減（令和2年）



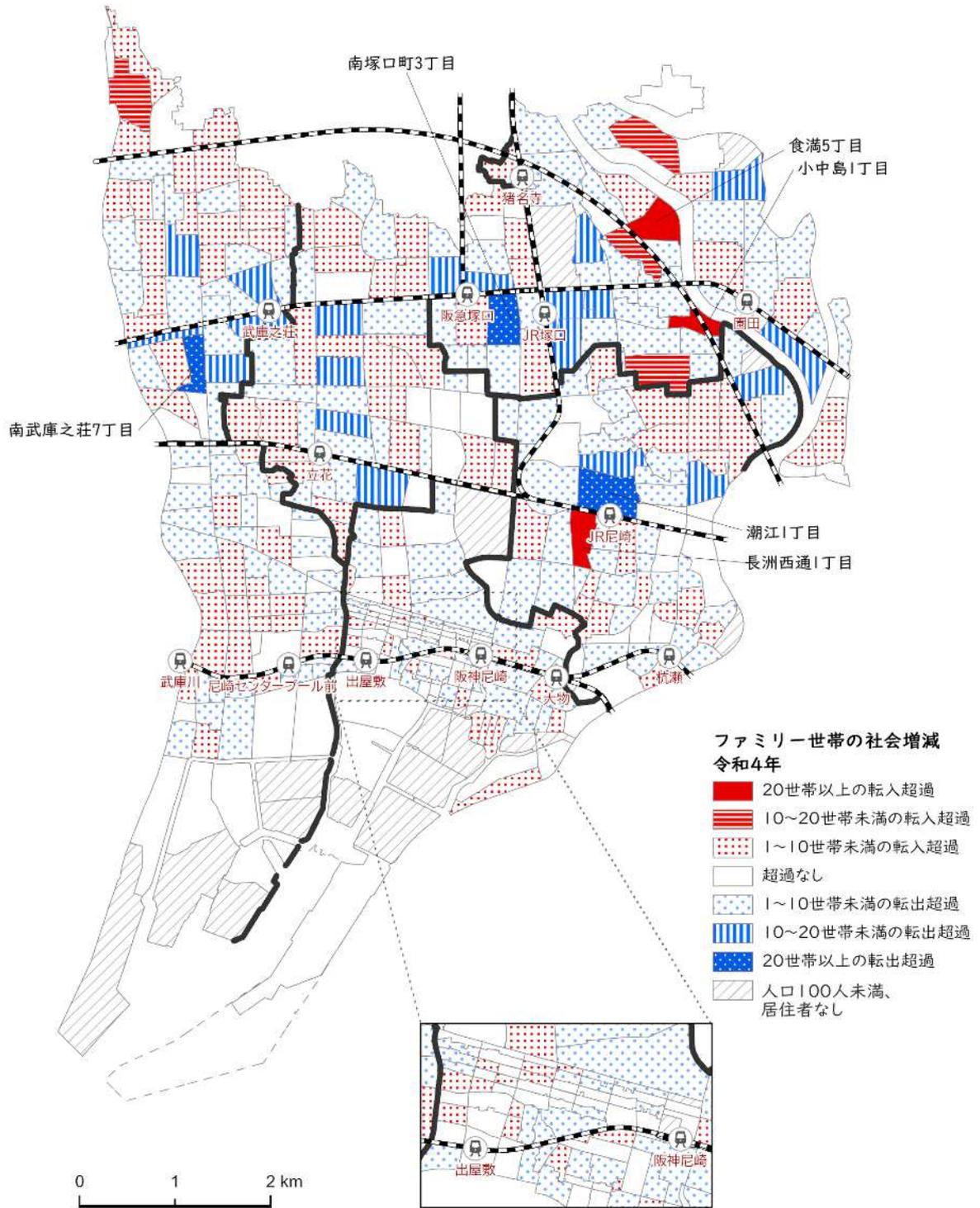
資料：尼崎市都市政策課

町丁目別 ファミリー世帯の社会増減（令和3年）



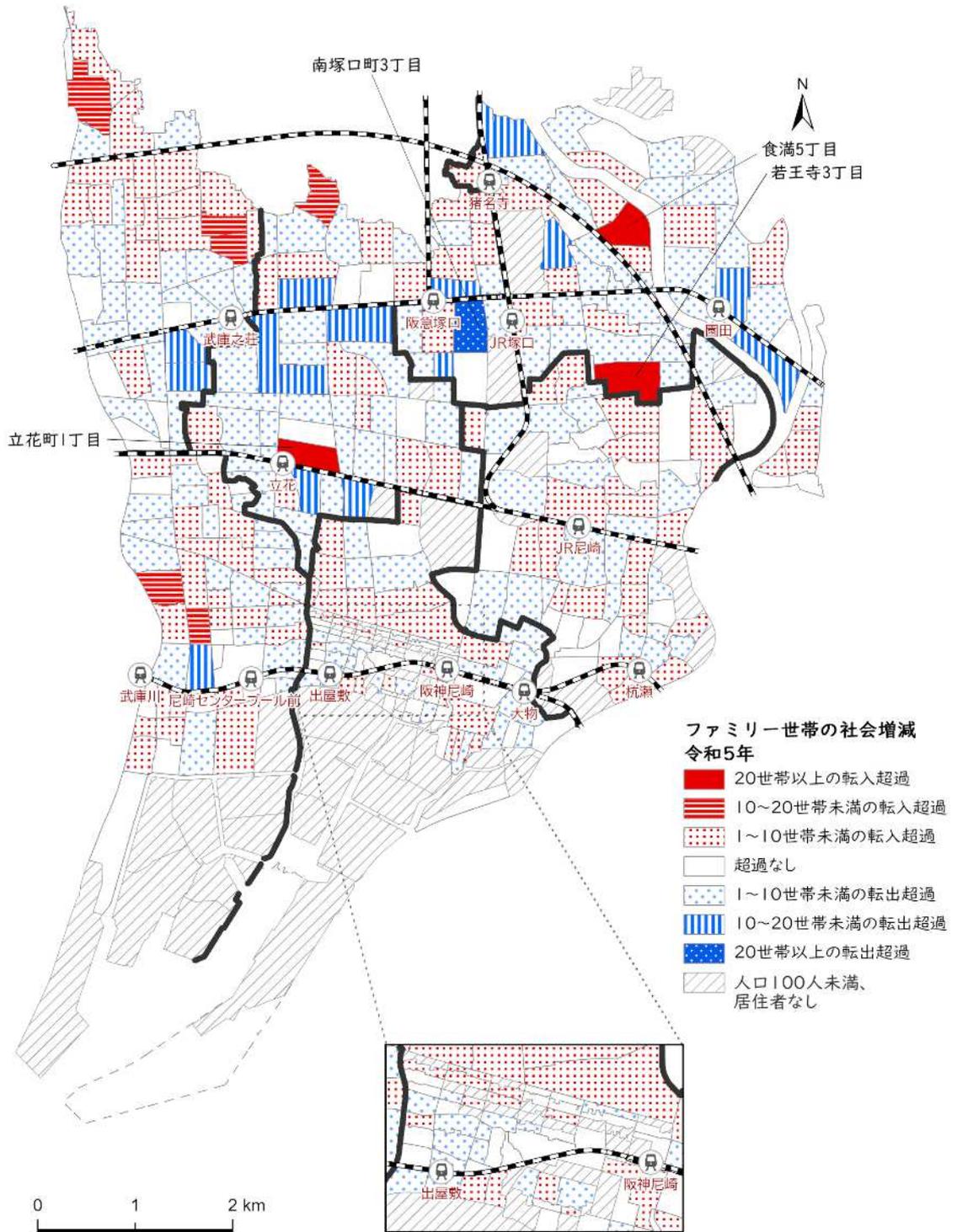
資料：尼崎市都市中央部

町丁目別 ファミリー世帯の社会増減（令和4年）



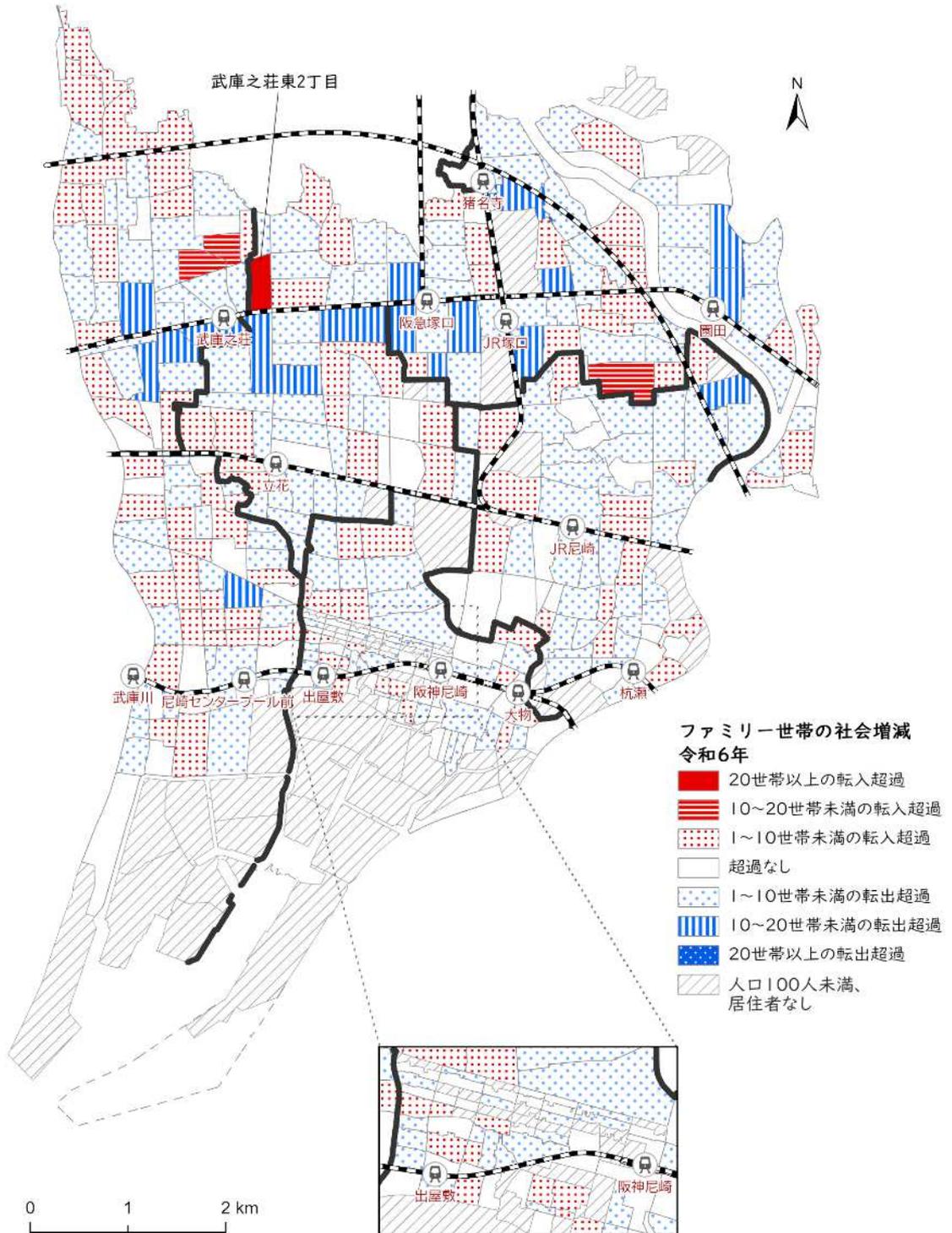
資料：尼崎市都市政策課

町丁目別 ファミリー世帯の社会増減（令和5年）



資料：尼崎市都市政策課

町丁目別 ファミリー世帯の社会増減（令和6年）



資料：尼崎市都市政策課

IV 尼崎市の人口の動向—令和2年国勢調査を中心に

1 人口構成の変化と少子化

(1) 人口構成

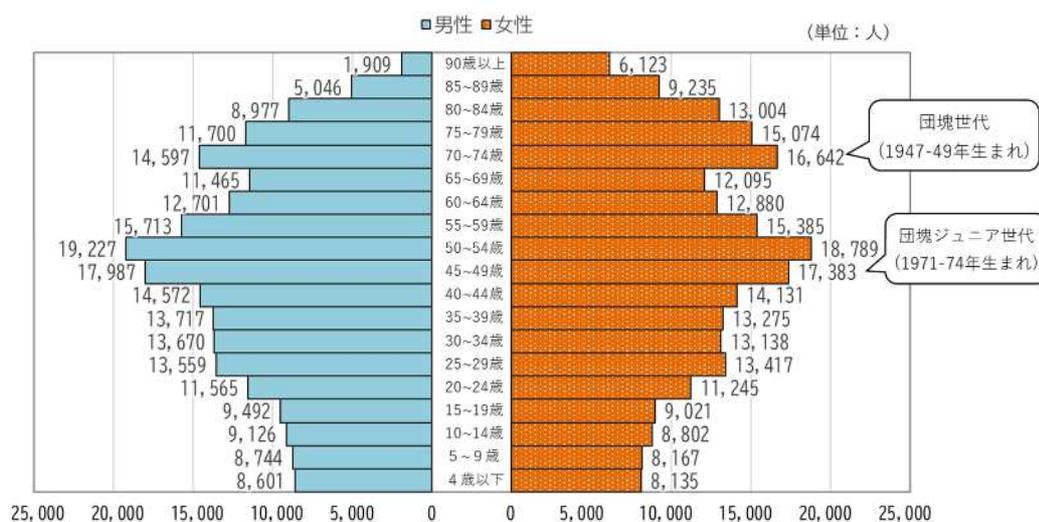
令和2年国勢調査による尼崎市の人口は458,309人であり、人口ピラミッドをみると、低出生率、低死亡率のつぼ型をしている。

年齢階級別にみると、男性では50～54歳（19,227人）、45～49歳（17,987人）、55～59歳（15,713人）の順で多く、女性では50～54歳（18,789人）、45～49歳（17,383人）、70～74歳（16,642人）の順が多い。男女とも、団塊のジュニア世代（46～49歳）よりも上の50～54歳が最も多い点が特徴的である。

40～44歳以下の年齢階級別人口は、年齢が下がるほど少ない傾向があり、20～24歳は22,810人、15～19歳は18,513人、4歳以下は16,736人となっている。

また、全市の人口性比（女性100人に対する男性の数）は94.2となっており、男性が少ない。

尼崎市の人口ピラミッド（令和2年）



資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所（日本の地域別将来推計人口）
※令和2年10月1日現在の人口

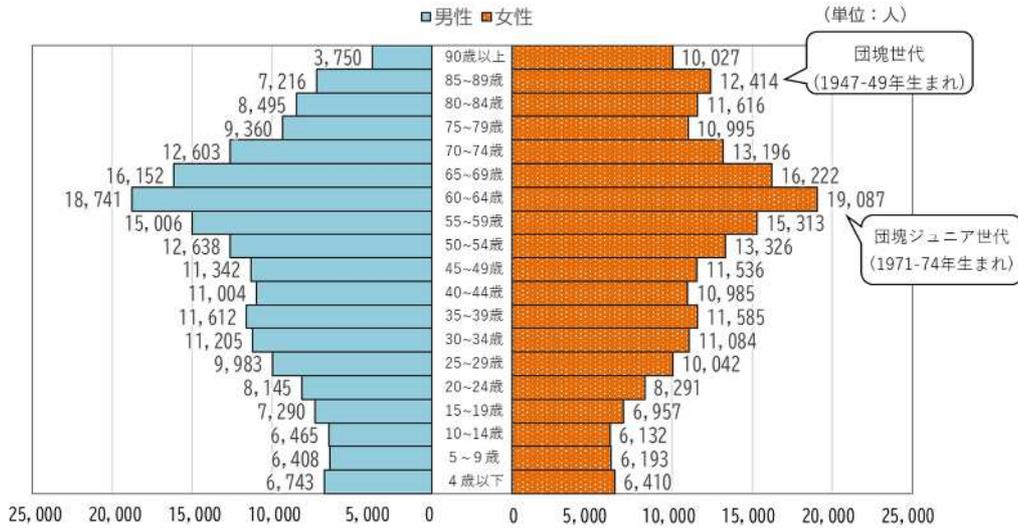
将来推計値による全市の人口をみると、令和17年は405,569人で、令和2年より約53,000人減少、令和27年は376,112人で、令和2年より約82,000人減少すると推計されている。

将来推計値に基づく人口ピラミッドをみると、年少人口（0～14歳人口）は、令和2年と比較して令和17年推計値では約13,000人、令和27年推計値では約16,000人減少すると推計されており、ピラミッドの裾はより狭くなっている。

また、39歳以下の若年層に注目すると、令和17年推計値では35～39歳が最多の23,197人、令和27年推計値でも35～39歳が最多で20,484人となっている。令和2年に45～54歳の人口の多くが、令和17年には老年人口（65歳以上）となる一方で、この世

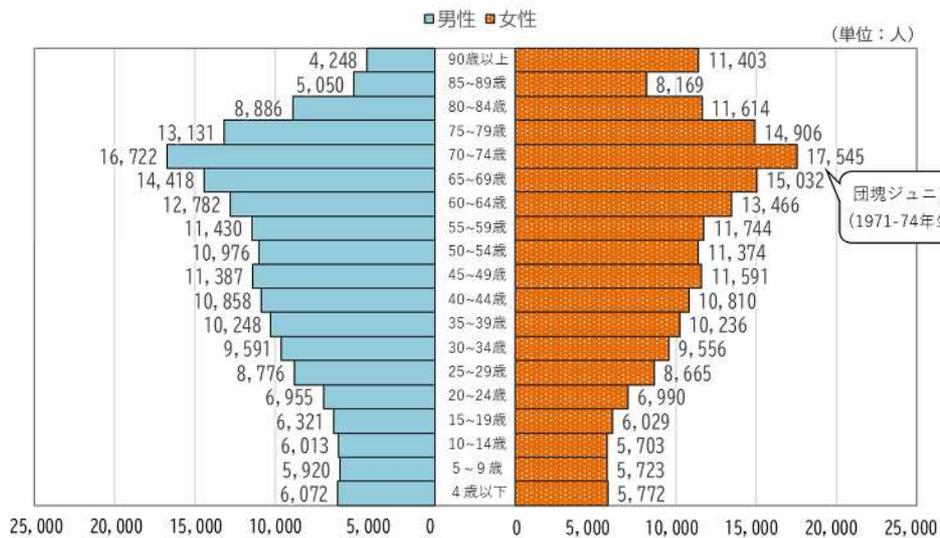
代を支える生産年齢人口（15～64歳）、特に若年層がさらに減少すると予想されている。

尼崎市の人口ピラミッド（令和17年、推計値）



資料：国立社会保障・人口問題研究所（日本の地域別将来推計人口）
 ※令和17年10月1日現在の推計人口

尼崎市の人口ピラミッド（令和27年、推計値）

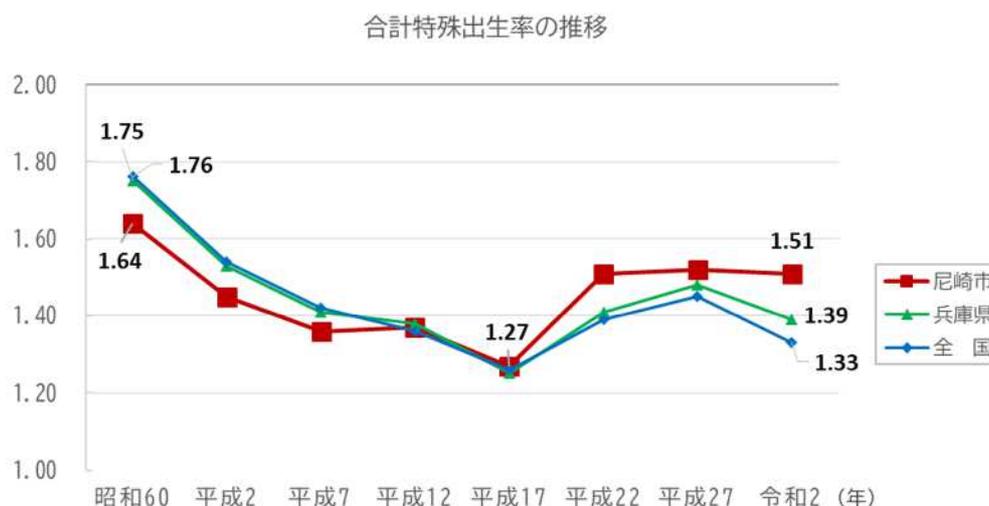


資料：国立社会保障・人口問題研究所（日本の地域別将来推計人口）
 ※令和27年10月1日現在の推計人口

(2) 出生率

①合計特殊出生率

尼崎市の合計特殊出生率（15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が一生の間に生む子どもの数に相当する。）は、昭和60年は1.64で、兵庫県の1.75、全国の1.76を下回っていた。平成17年には1.27まで低下したが、平成22年に1.51に上昇した後は、ほぼ横ばいで推移し、令和2年も1.51となっている。また、平成17年以降は、兵庫県、全国の合計特殊出生率を上回っている。



資料：兵庫県（国勢調査及び人口動態統計調査）

合計特殊出生率

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
尼崎市	1.64	1.45	1.36	1.37	1.27	1.51	1.52	1.51
兵庫県	1.75	1.53	1.41	1.38	1.25	1.41	1.48	1.39
全国	1.76	1.54	1.42	1.36	1.26	1.39	1.45	1.33

資料：兵庫県（国勢調査及び人口動態統計調査）

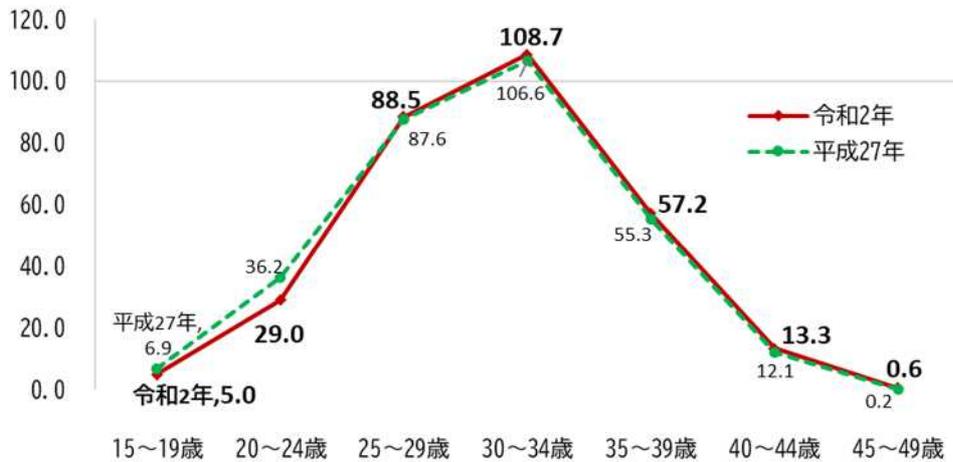
※平成7年以前は国勢調査による総人口（外国人を含む）。平成12年以降は年齢・国籍不詳を按分した日本人人口による。

②女性の年齢階級別出生率

尼崎市の女性の年齢階級別の出生率をみると、令和2年は、30～34歳が108.7（女性人口1,000人当たり）と最も高く、次いで、25～29歳が88.5、35～39歳が57.2の順で高くなっている。

令和2年の年齢階級別出生率を平成27年と比較すると、25歳以上では各年齢階級とも平成27年を上回っているものの、20～24歳は29.0となり7.2ポイント低下、15～19歳で5.0となり1.9ポイント低下しており、若い世代での出生率が低下している。

女性の年齢階級別出生率



資料：国勢調査及び人口動態統計調査・尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

女性の年齢階級別出生率及び合計特殊出生率

平成27年	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	合計特殊出生率
年齢階級別出生率	6.9	36.2	87.6	106.6	55.3	12.1	0.2	1.52
女性人口	9,252	10,130	11,682	13,203	14,914	18,114	16,049	
出生数	64	367	1,023	1,407	824	220	3	
令和2年	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	合計特殊出生率
年齢階級別出生率	5.0	29.0	88.5	108.7	57.2	13.3	0.6	1.51
女性人口	8,561	10,723	12,101	12,035	12,946	14,464	17,859	
出生数	43	311	1,071	1,308	741	193	10	

資料：国勢調査、人口動態統計調査、兵庫県「合計特殊出生率」、兵庫県保健統計年報

※女性の年齢階級別出生率（千人当たり）＝（ある年齢階級の母が1年間に生んだ子の数）÷（10月1日現在における日本人女性のある年齢階級の人口）×1,000。

※合計特殊出生率は、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率（母の年齢別出生数÷年齢別女性人口）の合計。ここでは各歳人口の代わりに年齢5歳階級別人口をもとに算出したため、年齢階級別の出生率を5倍した数値を合計している。

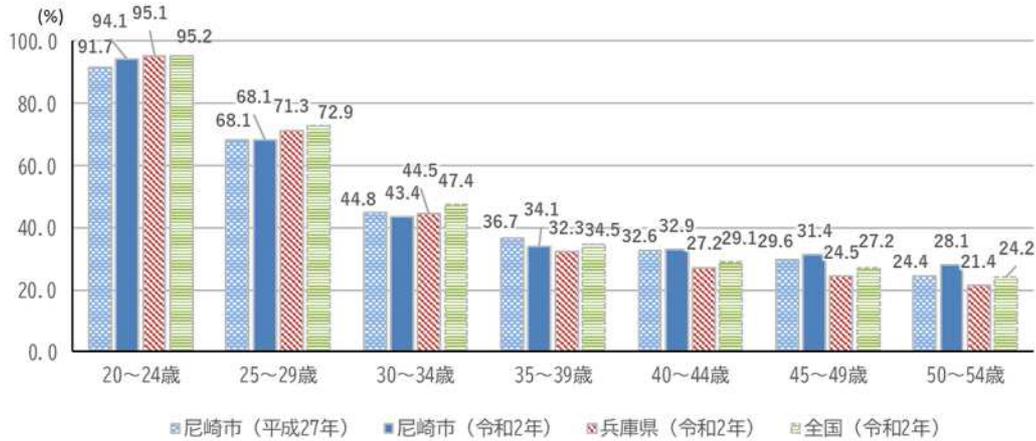
(3) 未婚率

本市の令和2年における20～54歳の未婚率をみると、男性は、20～24歳で94.1%、25～29歳で68.1%、30～34歳で43.4%と、年齢が上がるごとに低下し、35歳以上では30%前後となっている。また、40歳以上は、兵庫県、全国を上回っている。

女性は、20～24歳は91.8%、25～29歳で60.4%、30～34歳で36.0%となり、35歳以上では3割を下回る。30歳以上は全国、兵庫県を上回っている。

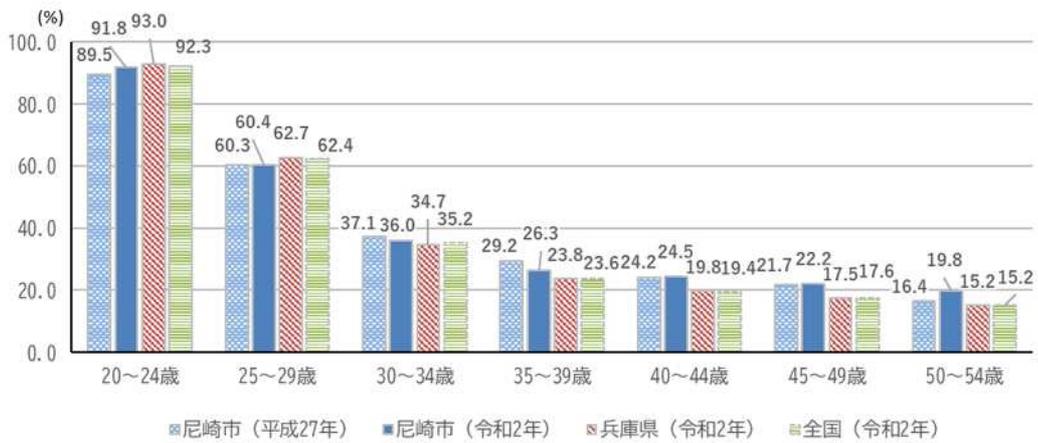
平成27年と比較すると、男性は、20～24歳で2.4ポイント、40歳代以上で0.3～3.7ポイント上昇し、30歳代では1.4～2.6ポイント低下している。女性は、30歳代で1.1～2.9ポイント低下しているが、20歳代は0.1～2.3ポイント上昇している。

未婚率の推移（男性）



資料：総務省「国勢調査」

未婚率の推移（女性）



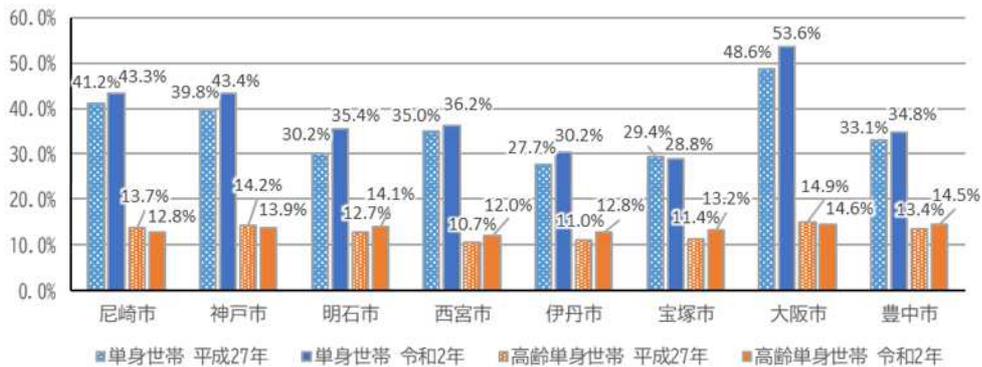
資料：総務省「国勢調査」

2 単身世帯及び高齢単身世帯の動向

令和2年の本市における単身世帯は95,671世帯で、構成比は平成27年の41.2%より2.1ポイント上昇して43.3%となり、近隣市では大阪市、神戸市に次いで高くなっている。

また、令和2年の本市における高齢単身世帯は28,198世帯となり、構成比は平成27年の13.7%より0.9ポイント低下して12.8%となり、近隣市では西宮市に次いで低く、伊丹市と同水準である。

単身世帯及び高齢単身世帯の構成比



資料：総務省「国勢調査」

	令和2年					平成27年		変化 (H27-R2)	
	世帯	単身世帯		高齢単身世帯		単身世帯	高齢単身世帯	単身世帯	高齢単身世帯
	(実数)	(実数)	(%)	(実数)	(%)	(%)	(%)		
尼崎市	221,148	95,671	43.3	28,198	12.8	41.2	13.7	2.1	▲ 0.9
神戸市	734,091	318,372	43.4	101,752	13.9	39.8	14.2	3.6	▲ 0.3
明石市	133,488	47,314	35.4	18,784	14.1	30.2	12.7	5.2	1.4
西宮市	215,454	78,102	36.2	25,821	12.0	35.0	10.7	1.2	1.3
伊丹市	82,384	24,916	30.2	10,572	12.8	27.7	11.0	2.5	1.8
宝塚市	95,366	27,457	28.8	12,579	13.2	29.4	11.4	▲ 0.6	1.8
大阪市	1,464,615	784,785	53.6	213,260	14.6	48.6	14.9	5.0	▲ 0.3
豊中市	176,759	61,489	34.8	25,642	14.5	33.1	13.4	1.7	1.1

資料：国勢調査

3 昼夜間人口比率

令和2年における本市の昼夜間人口比率※は0.966であり、通勤等による市外への流出人口が市内への流入人口を上回っている。近隣市のなかでは、本市は、大阪市（1.284）、神戸市（1.023）に次いで高く、通勤等による流入人口が比較的多い。

また、本市において令和2年（0.966）は、平成27年（0.963）と比べると0.003ポイント上昇しており、伊丹市（0.027ポイント）や宝塚市（0.011ポイント）、明石市（0.009ポイント）と比べると、上昇幅が小さくなっている。

昼夜間人口比率の推移



資料：総務省「国勢調査」

※ 昼夜間人口比率は、昼間人口（常住人口から通勤・通学による市外への流出人口を差し引き、通勤・通学による市外からの流入人口を加えた人口）を夜間人口（常住人口）で除したものである。1を超える場合、流入人口が流出人口を上回ることを意味する。

